

半導体における電磁場と相互作用する電子の有効ハミルトニアンの微視的導出

Microscopic Derivation of Effective Hamiltonian
of Electrons Interacting with Electromagnetic
Field in Semiconductors

奥村 暁

平成 28 年 12 月 22 日

1 Introduction

バンドギャップが eV 程度である半導体は可視光とエネルギーが同程度となるため、半導体中の電子と可視光の相互作用によって様々な現象が生じることが知られている。特に電子とホールの束縛状態である励起子はバンド端近傍の線形・非線形光学応答に対して非常に重要な役割を果たすと同時に、励起子のボーズ粒子性から、多励起子系が巨視的量子現象であるボーズ凝縮を示すことも期待されている。このように、可視光と半導体中の電子の相互作用に起因する現象は理論的にも実験的にも様々な研究が行われてきた [1, 2, 3]。

しかし近年、振動数が THz 程度である光を非常に強く発振する技術が発展したことにより、この THz 光と半導体の相互作用の研究が進んでいる。THz 光の振動数は励起子の内部自由度のエネルギーと同程度であることから、THz 光を用いることで励起子の内部自由度を直接調べることができるようになった。これにより今までの可視光を用いた研究では捉えることのできない現象が期待されることから、THz 光と半導体との相互作用は理論的にも実験的にも近年多くの研究が行われている [4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15]。

理論的な研究において、その基礎となるのは対象となる系を記述するハミルトニアンである。可視光と半導体中の電子の相互作用ハミルトニアンは、バンド間の電気双極子遷移を表す電子とホールの対生成、対消滅の項によって記述されるのに対し、THz 光という新しい光と半導体の電子との相互作用を記述するハミルトニアンは、光の振動数がバンドギャップに比べて十分小さいことから、電子とホールそれぞれのバンド内遷移が重要になる。

振動数がバンドギャップより小さい電磁場と半導体中の電子との相互作用を記述するハミルトニアンとして、Luttinger らは静磁場中による半導体中の電子のサイクロトロン運動を記述するためのハミルトニアンを一般的なハミルトニアンから正準変換によって導いている [16]。その変換の結果としてのハミルトニアンは電子がバンドの有効質量をもつ

た荷電粒子として電磁場とミニマルカップリングをする形になっている。そのハミルトニアンの特徴は、電子のバンド内遷移があるのみで、バンド間遷移はなく、また電子の裸の質量がなく、有効質量のみで記述されているところである。

一方、近年の THz 光と半導体中の電子との相互作用に関する理論的な研究として、Kira らは一般的なハミルトニアンを直接変形することによって、一般的な振動数の光と半導体中の電子との相互作用ハミルトニアンを導いている [17]。このハミルトニアンの特徴は、電子のバンド内遷移とバンド間遷移の両方を含み、かつ電子の質量も有効質量と裸の質量の両方を含んでいるため、このハミルトニアンは一般的な振動数の電磁場に対して成り立つ一方で、上述のハミルトニアンと比べ複雑になっている。Kira らはこのハミルトニアンを THz 光に適用することで、半導体による THz 光における半導体の光学応答の理論的計算の枠組みを作った。

このように、現在振動数がバンドギャップより十分小さい電磁場と相互作用する半導体中の電子の微視的ハミルトニアンは、2つの種類が用いられている状態であるが、これらの2種類のハミルトニアンの関係性については明らかにされていない。

この論文は、電磁場の振動数がバンドギャップより十分小さい場合において上述の2つの種類の微視的ハミルトニアンが一致することを理論的に示すものである。Kira らは彼らのハミルトニアンを用いた物理量の理論的計算の途中で、電子の裸の質量がキャンセルして消えることを指摘しているが、本研究の結論は端的にその理由を示すものになっている。

以下、電磁場と相互作用する半導体中の電子のハミルトニアンを、一般的な電磁場と電子のハミルトニアンから導出し、どのような形で電磁場と半導体中の電子との相互作用が記述できるかを説明し、最後に上記2種類のハミルトニアンの関係性について論じる。その際、半導体を扱うにあたっての固体物理の基本的な考えについても記述をすることで、この論文にておおよそのハミルトニアンの微視的導出が完結するようにした。

2 クーロンゲージを用いた電磁場と相互作用する電子の一般的なハミルトニアン

一般的に、電磁場と相互作用する電子のハミルトニアンは、クーロンゲージのもとで次のように表される。

$$\begin{aligned}
 \hat{H} = & \sum_{s's} \int_V d^3\mathbf{x} \hat{\psi}^\dagger(s', \mathbf{x}) \left[-\frac{\hbar^2}{2m} \left(\nabla - i\frac{(-e)}{\hbar c} \mathbf{A}(\mathbf{x}) \right)^2 \delta_{s's} + U_{s's}(\mathbf{x}) \right. \\
 & \left. - \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma}_{s's} \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{x}) \right] \hat{\psi}(s, \mathbf{x}) \\
 & + \frac{1}{2} \sum_{s's} \int_V d^3\mathbf{x} \int_V d^3\mathbf{x}' \hat{\psi}^\dagger(s, \mathbf{x}) \hat{\psi}^\dagger(s', \mathbf{x}') \frac{(-e)^2}{|\mathbf{x} - \mathbf{x}'|} \hat{\psi}(s', \mathbf{x}') \hat{\psi}(s, \mathbf{x}) \\
 & + \int d\mathbf{x}^3 \frac{1}{8\pi} \left[(-4\pi c \boldsymbol{\Pi}^T(\mathbf{x})) \cdot (-4\pi c \boldsymbol{\Pi}^T(\mathbf{x})) + \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{x}) \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{x}) \right] \quad (1)
 \end{aligned}$$

ここで、 $\hat{\psi}(s, \mathbf{x})$ はスピンインデックス s の電子場の消滅演算子であり、次の反交換関係を満たす。

$$\left\{ \hat{\psi}(s, \mathbf{x}), \hat{\psi}(s', \mathbf{x}') \right\} = 0 \quad (2)$$

$$\left\{ \hat{\psi}(s, \mathbf{x}), \hat{\psi}^\dagger(s', \mathbf{x}') \right\} = \delta_{ss'} \delta(\mathbf{x} - \mathbf{x}') \quad (3)$$

また $\mathbf{A}(\mathbf{x})$ はベクトルポテンシャルであり、 $\boldsymbol{\Pi}^T(\mathbf{x})$ は $\mathbf{A}(\mathbf{x})$ の正準運動量を表す横波の場で、電場 $\mathbf{E}(\mathbf{x})$ と次のような関係をもつ。

$$\mathbf{E}(\mathbf{x}) = -4\pi c \boldsymbol{\Pi}^T(\mathbf{x}) \quad (4)$$

$U_{s's}(\mathbf{x})$ は結晶中の周期的ポテンシャル、 $\boldsymbol{\sigma}$ はPauli行列、 m は電子の裸の質量を表している。また、空間積分は体積 V の結晶内で行われるものとする。

3 Bloch function $b_{\lambda K}(s, \mathbf{x})$ と Wannier function $w_{\lambda R}(s, \mathbf{x})$

ここでは、周期的ポテンシャル中での電子場を考察するための数学的な準備を説明する。

3.1 Primitive translational vector と Reciprocal lattice axis vector

Primitive translational vector (基本並進ベクトル) は、結晶中のすべての格子点をそれらの整数倍の線形結合のベクトルで表すことのできるベクトルであり、選び方は無限にある。それらの選び方の1つを $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$ とする。

このとき並進ベクトル \mathbf{T} を

$$\mathbf{T} = n_1 \mathbf{a}_1 + n_2 \mathbf{a}_2 + n_3 \mathbf{a}_3 \quad (5)$$

(n_i = 結晶中の格子点をすべて表すための整数)

また、 $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$ で作られる平行6面体の体積 v_0

$$v_0 = |\mathbf{a}_1 \cdot (\mathbf{a}_2 \times \mathbf{a}_3)| \quad (6)$$

は単位胞の最小のものであり、どのような基本並進ベクトルをとっても v_0 は不変である。

次に、この基本並進ベクトルに対応する Reciprocal Lattice Axis Vector $\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \mathbf{b}_3$ は次のように定義される。

$$\mathbf{b}_1 = 2\pi \frac{\mathbf{a}_2 \times \mathbf{a}_3}{\mathbf{a}_1 \cdot \mathbf{a}_2 \times \mathbf{a}_3} \quad (7)$$

$$\mathbf{b}_2 = 2\pi \frac{\mathbf{a}_3 \times \mathbf{a}_1}{\mathbf{a}_1 \cdot \mathbf{a}_2 \times \mathbf{a}_3} \quad (8)$$

$$\mathbf{b}_3 = 2\pi \frac{\mathbf{a}_1 \times \mathbf{a}_2}{\mathbf{a}_1 \cdot \mathbf{a}_2 \times \mathbf{a}_3} \quad (9)$$

これらのベクトルより、Reciprocal Lattice vector \mathbf{G} を

$$\mathbf{G} = m_1 \mathbf{b}_1 + m_2 \mathbf{b}_2 + m_3 \mathbf{b}_3 \quad (10)$$

(m_i = 全整数) (11)

この \mathbf{G} によって作られる格子点を波数空間の逆格子 Reciprocal Lattice といい、 $\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \mathbf{b}_3$ は波数空間での基本並進ベクトルをあらわし、波数空間の繰り返し構造を表している。

この $\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \mathbf{b}_3$ で作られる波数空間内の平行 6 面体の体積を計算すると,

$$|\mathbf{b}_1 \cdot (\mathbf{b}_2 \times \mathbf{b}_3)| = \frac{(2\pi)^3}{v_0} \quad (12)$$

となる。

3.2 First Brillouin Zone (FBZ)

波数空間における逆格子の Wigner-Seitz Cell を First Brillouin Zone という。First Brillouin Zone の体積も

$$|\mathbf{b}_1 \cdot (\mathbf{b}_2 \times \mathbf{b}_3)| = \frac{(2\pi)^3}{v_0} \quad (13)$$

である。

3.3 Lattice Axis Vector

基本単位格子とは限らない単位格子 Unit cell を表す Lattice Axis Vector を $\alpha_1, \alpha_2, \alpha_3$ とする。これらのベクトルがつくる平行 6 面体の体積 v は

$$v = |\alpha_1 \cdot \alpha_2 \times \alpha_3| \quad (14)$$

またこれらの N_1, N_2, N_3 倍を結晶の辺を表すベクトル $\mathbf{L}_1, \mathbf{L}_2, \mathbf{L}_3$ とする。

$$\mathbf{L}_1 = N_1 \alpha_1 \quad (15)$$

$$\mathbf{L}_2 = N_2 \alpha_2 \quad (16)$$

$$\mathbf{L}_3 = N_3 \alpha_3 \quad (17)$$

ここで結晶のサイト位置ベクトルは

$$\mathbf{R} = n_1 \alpha_1 + n_2 \alpha_2 + n_3 \alpha_3 \quad (18)$$
$$(n_i = 0 \cdots N_i - 1)$$

で表す。

また結晶の体積 V は

$$V = \mathbf{L}_1 \cdot \mathbf{L}_2 \times \mathbf{L}_3 \quad (19)$$

$$\equiv N_1 N_2 N_3 v \quad (20)$$

3.4 Periodic Boundary Condition and Wave Number Vector

結晶が $\mathbf{L}_1, \mathbf{L}_2, \mathbf{L}_3$ で作られる平行 6 面体でできているものとし, 周期的境界条件をつけて結晶内の物理量を考えることとする。

このとき, 結晶内での波動現象を表す波数ベクトル \mathbf{K} は

$$\mathbf{K} = m_1 d\mathbf{K}_1 + m_2 d\mathbf{K}_2 + m_3 d\mathbf{K}_3 \quad (21)$$

(m_i は全整数)

で表せられる。

ここで

$$d\mathbf{K}_1 = 2\pi \frac{\mathbf{L}_2 \times \mathbf{L}_3}{\mathbf{L}_1 \cdot \mathbf{L}_2 \times \mathbf{L}_3} \quad (22)$$

$$\equiv \frac{1}{N_1} 2\pi \frac{\boldsymbol{\alpha}_2 \times \boldsymbol{\alpha}_3}{\boldsymbol{\alpha}_1 \cdot \boldsymbol{\alpha}_2 \times \boldsymbol{\alpha}_3} \quad (23)$$

$$d\mathbf{K}_2 = 2\pi \frac{\mathbf{L}_3 \times \mathbf{L}_1}{\mathbf{L}_1 \cdot \mathbf{L}_2 \times \mathbf{L}_3} \quad (24)$$

$$\equiv \frac{1}{N_2} 2\pi \frac{\boldsymbol{\alpha}_3 \times \boldsymbol{\alpha}_1}{\boldsymbol{\alpha}_1 \cdot \boldsymbol{\alpha}_2 \times \boldsymbol{\alpha}_3} \quad (25)$$

$$d\mathbf{K}_3 = 2\pi \frac{\mathbf{L}_1 \times \mathbf{L}_2}{\mathbf{L}_1 \cdot \mathbf{L}_2 \times \mathbf{L}_3} \quad (26)$$

$$\equiv \frac{1}{N_3} 2\pi \frac{\boldsymbol{\alpha}_1 \times \boldsymbol{\alpha}_2}{\boldsymbol{\alpha}_1 \cdot \boldsymbol{\alpha}_2 \times \boldsymbol{\alpha}_3} \quad (27)$$

である。

よって, 波数空間はこれらの非常に細かい点の集合でできている。これらの点の 1 点あたりの波数空間の体積は

$$d\mathbf{K}_1 \cdot d\mathbf{K}_2 \times d\mathbf{K}_3 = \frac{1}{N_1 N_2 N_3} \frac{(2\pi)^3}{v} \quad (28)$$

$$= \frac{(2\pi)^3}{V} \quad (29)$$

3.5 FBZ 内の状態数

First Brillouin Zone 内における波数の数, つまり状態数は

$$\frac{\text{FBZ の体積}}{\text{波数の 1 点あたりの体積}} = \frac{V}{v_0} \quad (30)$$

$$= \text{結晶中の基本単位格子の数} \quad (31)$$

となる。

3.6 Bloch function

結晶中の周期的ポテンシャルによる 1 体の電子のエネルギー固有関数は Bloch Function $b_{\lambda\mathbf{K}}(s, \mathbf{x})$ を用いて表される。

$$\begin{pmatrix} b_{\lambda\mathbf{K}}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ b_{\lambda\mathbf{K}}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} u_{\lambda\mathbf{K}}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ u_{\lambda\mathbf{K}}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{N}} e^{i\mathbf{K}\mathbf{x}} \quad (32)$$

ここで $N \equiv N_1 N_2 N_3$, λ はバンドインデックスであり, バンドが conduction band を表すとき $\lambda = c$, valence band を表すとき $\lambda = v$ とする。また \mathbf{K} は First Brillouin Zone 内の波数を表す。つまり

$$\mathbf{K} = m_1 d\mathbf{K}_1 + m_2 d\mathbf{K}_2 + m_3 d\mathbf{K}_3 \quad (33)$$

(m_i は First Brillouin Zone に入る整数)

$u_{\lambda\mathbf{K}}(s, \mathbf{x})$ は結晶と同じ周期性をもつ関数であり, 任意の並進ベクトル \mathbf{T} に対し,

$$\begin{pmatrix} u_{\lambda\mathbf{K}}(\uparrow, \mathbf{x} + \mathbf{T}) \\ u_{\lambda\mathbf{K}}(\downarrow, \mathbf{x} + \mathbf{T}) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} u_{\lambda\mathbf{K}}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ u_{\lambda\mathbf{K}}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} \quad (34)$$

を満たしている。

また周期的境界条件を用いるものとし,

$$\begin{pmatrix} b_{\lambda\mathbf{K}}(\uparrow, \mathbf{x} + \mathbf{L}_i) \\ b_{\lambda\mathbf{K}}(\downarrow, \mathbf{x} + \mathbf{L}_i) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} u_{\lambda\mathbf{K}}(\uparrow, \mathbf{x} + \mathbf{L}_i) \\ u_{\lambda\mathbf{K}}(\downarrow, \mathbf{x} + \mathbf{L}_i) \end{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{N}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{x} + \mathbf{L}_i)} \quad (35)$$

$$= \begin{pmatrix} b_{\lambda\mathbf{K}}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ b_{\lambda\mathbf{K}}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} \quad (36)$$

が成り立つ。

ここで

$$\mathbf{K} \cdot \mathbf{L}_i = 2\pi m_i \quad (i = 1, 2, 3) \quad (37)$$

を用いている。

3.7 Wannier function

Wannier function $w_{\lambda\mathbf{R}}(s, \mathbf{x})$ は以下のような Bloch function の線形結合によって定義される。

$$\begin{pmatrix} w_{\lambda\mathbf{R}}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ w_{\lambda\mathbf{R}}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} = \sum_{\mathbf{K}} \begin{pmatrix} b_{\lambda\mathbf{K}}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ b_{\lambda\mathbf{K}}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{N}} e^{-i\mathbf{K}\mathbf{R}} \quad (38)$$

$$\stackrel{\text{or}}{=} \sum_{\mathbf{K}} \begin{pmatrix} u_{\lambda\mathbf{K}}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ u_{\lambda\mathbf{K}}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{x}-\mathbf{R})} \quad (39)$$

また逆に、Bloch function も Wannier function の線形結合で書くことができる。

$$\begin{pmatrix} b_{\lambda\mathbf{K}}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ b_{\lambda\mathbf{K}}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} = \sum_{\mathbf{R}} \begin{pmatrix} w_{\lambda\mathbf{R}}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ w_{\lambda\mathbf{R}}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{N}} e^{i\mathbf{K}\mathbf{R}} \quad (40)$$

Bloch function が周期的境界条件をもつことから、以下のように Wannier function も周期的境界条件をもつ。

$$\begin{pmatrix} w_{\lambda\mathbf{R}}(\uparrow, \mathbf{x} + \mathbf{L}_i) \\ w_{\lambda\mathbf{R}}(\downarrow, \mathbf{x} + \mathbf{L}_i) \end{pmatrix} = \sum_{\mathbf{K}} \begin{pmatrix} b_{\lambda\mathbf{K}}(\uparrow, \mathbf{x} + \mathbf{L}_i) \\ b_{\lambda\mathbf{K}}(\downarrow, \mathbf{x} + \mathbf{L}_i) \end{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{N}} e^{-i\mathbf{K}\mathbf{R}} \quad (41)$$

$$= \begin{pmatrix} w_{\lambda\mathbf{R}}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ w_{\lambda\mathbf{R}}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} \quad (42)$$

3.8 Bloch function と Wannier function の正規直交性と完全性

Bloch function と Wannier function はそれぞれ以下のように正規直交性と完全性をもつものとする。

$$\int d\mathbf{x}^3 \left(b_{\lambda'K'}^*(\uparrow, \mathbf{x}), b_{\lambda'K'}^*(\downarrow, \mathbf{x}) \right) \begin{pmatrix} b_{\lambda K}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ b_{\lambda K}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} = \delta_{\lambda'\lambda} \delta_{K'K} \quad (43)$$

$$\int d\mathbf{x}^3 \left(w_{\lambda'R'}^*(\uparrow, \mathbf{x}), w_{\lambda'R'}^*(\downarrow, \mathbf{x}) \right) \begin{pmatrix} w_{\lambda R}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ w_{\lambda R}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} = \delta_{\lambda'\lambda} \delta_{R'R} \quad (44)$$

$$\sum_{\lambda K} \begin{pmatrix} b_{\lambda K}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ b_{\lambda K}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} \begin{pmatrix} b_{\lambda K}^*(\uparrow, \mathbf{x}') \\ b_{\lambda K}^*(\downarrow, \mathbf{x}') \end{pmatrix} = \delta(\mathbf{x} - \mathbf{x}') \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \quad (45)$$

$$\sum_{\lambda R} \begin{pmatrix} w_{\lambda R}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ w_{\lambda R}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} \begin{pmatrix} w_{\lambda R}^*(\uparrow, \mathbf{x}') \\ w_{\lambda R}^*(\downarrow, \mathbf{x}') \end{pmatrix} = \delta(\mathbf{x} - \mathbf{x}') \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \quad (46)$$

3.9 電子場 $\hat{\psi}(s, \mathbf{x})$ の展開と消滅演算子 $\hat{c}_{\lambda K}$, $\hat{c}_{\lambda R}$

Bloch function と wannier function の完全性より、電子の場の演算子 $\hat{\psi}(s, \mathbf{x})$ を Bloch function と Wannier function でそれぞれ展開すると、

$$\begin{pmatrix} \hat{\psi}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ \hat{\psi}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} = \sum_{\lambda K} \hat{c}_{\lambda K} \begin{pmatrix} b_{\lambda K}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ b_{\lambda K}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} \quad (47)$$

$$\equiv \sum_{\lambda R} \hat{c}_{\lambda R} \begin{pmatrix} w_{\lambda R}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ w_{\lambda R}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} \quad (48)$$

ここで、 $\hat{c}_{\lambda K}$ と $\hat{c}_{\lambda R}$ はそれぞれ電子の場を Bloch function と Wannier function で展開したときの電子の消滅演算子であり、次の反交換関係を満たすものである。

$$\{\hat{c}_{\lambda K}, \hat{c}_{\lambda'K'}\} = 0 \quad (49)$$

$$\{\hat{c}_{\lambda K}, \hat{c}_{\lambda'K'}^\dagger\} = \delta_{\lambda\lambda'} \delta_{KK'} \quad (50)$$

$$\{\hat{c}_{\lambda R}, \hat{c}_{\lambda'R'}\} = 0 \quad (51)$$

$$\{\hat{c}_{\lambda R}, \hat{c}_{\lambda'R'}^\dagger\} = \delta_{\lambda\lambda'} \delta_{RR'} \quad (52)$$

また、 $\hat{c}_{\lambda K}$ と $\hat{c}_{\lambda R}$ は次のような関係をもつ。

$$\hat{c}_{\lambda R} = \sum_{K} \hat{c}_{\lambda K} \frac{1}{\sqrt{N}} e^{iKR} \quad (53)$$

または

$$\hat{c}_{\lambda\mathbf{K}} = \sum_{\mathbf{R}} \hat{c}_{\lambda\mathbf{R}} \frac{1}{\sqrt{N}} e^{-i\mathbf{K}\mathbf{R}} \quad (54)$$

3.10 Bra-Cket representation

以下のように，関数を抽象的な Bra-Cket で表記することもできる。

$$\begin{pmatrix} u_{\lambda\mathbf{k}}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ u_{\lambda\mathbf{k}}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{N}} e^{i\mathbf{K}\mathbf{x}} \rightarrow |\lambda\mathbf{k}, \mathbf{K}\rangle \quad (55)$$

$$\begin{pmatrix} w_{\lambda\mathbf{R}}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ w_{\lambda\mathbf{R}}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} \rightarrow |\lambda\mathbf{R}\rangle = \sum_{\mathbf{k}} |\lambda\mathbf{k}, \mathbf{k}\rangle \frac{1}{\sqrt{N}} e^{-i\mathbf{k}\mathbf{R}} \quad (56)$$

$$\left(u_{\lambda\mathbf{k}}^*(\uparrow, \mathbf{x}), u_{\lambda\mathbf{k}}^*(\downarrow, \mathbf{x}) \right) \frac{1}{\sqrt{N}} e^{-i\mathbf{K}\mathbf{x}} \rightarrow \langle \lambda\mathbf{k}, \mathbf{K}| \quad (57)$$

$$\left(w_{\lambda\mathbf{R}}^*(\uparrow, \mathbf{x}), w_{\lambda\mathbf{R}}^*(\downarrow, \mathbf{x}) \right) \rightarrow \langle \lambda\mathbf{R}| = \sum_{\mathbf{k}} \langle \lambda\mathbf{k}, \mathbf{k}| \frac{1}{\sqrt{N}} e^{i\mathbf{k}\mathbf{R}} \quad (58)$$

ここで，任意の演算子 $O_{s's}(\frac{\hbar}{i}\nabla, \hat{\mathbf{x}})$ に対し，

$$\begin{aligned} \sum_{s's} \int_V d\mathbf{x} w_{\lambda'\mathbf{R}'}^*(s', \mathbf{x}) O_{s's}(\frac{\hbar}{i}\nabla, \mathbf{x}) w_{\lambda\mathbf{R}}(s, \mathbf{x}) \\ \equiv \langle \lambda'\mathbf{R}' | O(\hat{\mathbf{P}}, \hat{\mathbf{x}}) | \lambda\mathbf{R} \rangle \end{aligned} \quad (59)$$

$$\begin{aligned} \sum_{s's} \int_V d\mathbf{x} u_{\lambda'\mathbf{k}'}^*(s', \mathbf{x}) \frac{1}{\sqrt{N}} e^{-i\mathbf{K}'\mathbf{x}} O_{s's}(\frac{\hbar}{i}\nabla, \mathbf{x}) u_{\lambda\mathbf{k}}(s, \mathbf{x}) \frac{1}{\sqrt{N}} e^{i\mathbf{K}\mathbf{x}} \\ \equiv \langle \lambda'\mathbf{k}', \mathbf{K}' | O(\hat{\mathbf{P}}, \hat{\mathbf{x}}) | \lambda\mathbf{k}, \mathbf{K} \rangle \end{aligned} \quad (60)$$

$$\begin{aligned} \sum_{s's} \int_V d\mathbf{x} w_{\lambda'\mathbf{R}'}^*(s', \mathbf{x}) O_{s's}(\frac{\hbar}{i}\nabla, \mathbf{x}) u_{\lambda\mathbf{k}}(s, \mathbf{x}) \frac{1}{\sqrt{N}} e^{i\mathbf{K}\mathbf{x}} \\ \equiv \langle \lambda'\mathbf{R}' | O(\hat{\mathbf{P}}, \hat{\mathbf{x}}) | \lambda\mathbf{k}, \mathbf{K} \rangle \end{aligned} \quad (61)$$

$$\begin{aligned} \sum_{s's} \int_V d\mathbf{x} u_{\lambda'\mathbf{k}'}^*(s', \mathbf{x}) \frac{1}{\sqrt{N}} e^{-i\mathbf{K}'\mathbf{x}} O_{s's}(\frac{\hbar}{i}\nabla, \mathbf{x}) w_{\lambda\mathbf{R}}(s, \mathbf{x}) \\ \equiv \langle \lambda'\mathbf{k}', \mathbf{K}' | O(\hat{\mathbf{P}}, \hat{\mathbf{x}}) | \lambda\mathbf{R} \rangle \end{aligned} \quad (62)$$

と表現する。ここで， V は結晶全体の体積を表す。

次に、 $O(\hat{\mathbf{P}}, \hat{\mathbf{x}})$ が周期的な演算子である場合について考える。演算子 $O(\hat{\mathbf{P}}, \hat{\mathbf{x}})$ が任意の並進ベクトル \mathbf{T} に対し、

$$O(\hat{\mathbf{P}}, \hat{\mathbf{x}} + \mathbf{T}) = O(\hat{\mathbf{P}}, \hat{\mathbf{x}}) \quad (63)$$

であるとき、

$$\begin{aligned} & \langle \lambda' \mathbf{k}', \mathbf{K}' | O(\hat{\mathbf{P}}, \hat{\mathbf{x}}) | \lambda \mathbf{k}, \mathbf{K} \rangle \\ &= \sum_{s' s} \int_V d\mathbf{x} u_{\lambda' \mathbf{k}'}^*(s', \mathbf{x}) \frac{1}{\sqrt{N}} e^{-i\mathbf{K}' \mathbf{x}} O\left(\frac{\hbar}{i} \nabla, \mathbf{x}\right)_{s' s} u_{\lambda \mathbf{k}}(s, \mathbf{x}) \frac{1}{\sqrt{N}} e^{i\mathbf{K} \mathbf{x}} \end{aligned} \quad (64)$$

$$= \sum_{s' s} \int_V d\mathbf{x} \frac{1}{N} e^{i(\mathbf{K} - \mathbf{K}') \mathbf{x}} u_{\lambda' \mathbf{k}'}^*(s', \mathbf{x}) O\left(\frac{\hbar}{i} (\nabla + i\mathbf{K}), \mathbf{x}\right)_{s' s} u_{\lambda \mathbf{k}}(s, \mathbf{x}) \quad (65)$$

$$\begin{aligned} &= \sum_{\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i(\mathbf{K} - \mathbf{K}') \mathbf{R}} \\ &\times \sum_{s' s} \int_v d\mathbf{x} e^{i(\mathbf{K} - \mathbf{K}') \mathbf{x}} u_{\lambda' \mathbf{k}'}^*(s', \mathbf{x}) O\left(\frac{\hbar}{i} (\nabla + i\mathbf{K}), \mathbf{x} + \mathbf{R}\right)_{s' s} u_{\lambda \mathbf{k}}(s, \mathbf{x}) \end{aligned} \quad (66)$$

$$\begin{aligned} &= \sum_{\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i(\mathbf{K} - \mathbf{K}') \mathbf{R}} \\ &\times \sum_{s' s} \int_v d\mathbf{x} e^{i(\mathbf{K} - \mathbf{K}') \mathbf{x}} u_{\lambda' \mathbf{k}'}^*(s', \mathbf{x}) O\left(\frac{\hbar}{i} (\nabla + i\mathbf{K}), \mathbf{x}\right)_{s' s} u_{\lambda \mathbf{k}}(s, \mathbf{x}) \end{aligned} \quad (67)$$

$$= \delta_{\mathbf{K}' \mathbf{K}} \sum_{s' s} \int_v d\mathbf{x} u_{\lambda' \mathbf{k}'}^*(s', \mathbf{x}) O\left(\frac{\hbar}{i} (\nabla + i\mathbf{K}), \mathbf{x}\right)_{s' s} u_{\lambda \mathbf{k}}(s, \mathbf{x}) \quad (68)$$

$$\equiv \delta_{\mathbf{K}' \mathbf{K}} \langle \lambda' \mathbf{k}' | O(\hat{\mathbf{p}} + \hbar \mathbf{K}, \mathbf{x})_{s' s} | \lambda \mathbf{k} \rangle \quad (69)$$

ここで、 v は単位格子の体積である。

よって、周期的な演算子 $O(\hat{\mathbf{P}}, \hat{\mathbf{x}})$ に対して、簡単のために次のような表現をする。

$$O(\hat{\mathbf{P}}, \hat{\mathbf{x}}) | \lambda \mathbf{k}, \mathbf{K} \rangle = \{O(\hat{\mathbf{p}} + \hbar \mathbf{K}, \hat{\mathbf{x}}) | \lambda \mathbf{k} \rangle\} | \mathbf{K} \rangle \equiv O(\hat{\mathbf{p}} + \hbar \mathbf{K}, \hat{\mathbf{x}}) | \lambda \mathbf{k}, \mathbf{K} \rangle \quad (70)$$

ただし、 $\hat{\mathbf{p}}$ は前の状態 $| \lambda \mathbf{k} \rangle$ にかかるものとする。

ここで、 $| \lambda \mathbf{k} \rangle$ は次のような関数に対応する。

$$| \lambda \mathbf{k} \rangle \rightarrow \begin{pmatrix} u_{\lambda \mathbf{k}}(\uparrow, \mathbf{x}) \\ u_{\lambda \mathbf{k}}(\downarrow, \mathbf{x}) \end{pmatrix} \quad (71)$$

ここで、 $u_{\lambda \mathbf{k}}(s, \mathbf{x})$ における \mathbf{x} は原点に置かれた単位格子内の座標を意味する。

4 Bloch function を用いて表現されたハミルトニアン

クーロンゲージを用いた電磁場と相互作用する結晶中の電子のハミルトニアンは、電子の場 $\hat{\psi}(s, \mathbf{x})$ を Bloch function を用いて展開することにより、以下のように表現される。

$$H = \sum_{\lambda_4 \mathbf{K}_4} \sum_{\lambda_1 \mathbf{K}_1} H_0 \{ \lambda_4 \mathbf{K}_4 | \lambda_1 \mathbf{K}_1 \} \hat{c}_{\lambda_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{c}_{\lambda_1 \mathbf{K}_1} \quad (72)$$

$$+ \frac{1}{2} \sum_{\lambda_4 \mathbf{K}_4} \sum_{\lambda_3 \mathbf{K}_3} \sum_{\lambda_2 \mathbf{K}_2} \sum_{\lambda_1 \mathbf{K}_1} V \{ \lambda_4 \mathbf{K}_4, \lambda_3 \mathbf{K}_3 | \lambda_2 \mathbf{K}_2, \lambda_1 \mathbf{K}_1 \} \hat{c}_{\lambda_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{c}_{\lambda_3 \mathbf{K}_3}^\dagger \hat{c}_{\lambda_2 \mathbf{K}_2} \hat{c}_{\lambda_1 \mathbf{K}_1} \quad (73)$$

$$- \frac{1}{c} \sum_{\lambda_4 \mathbf{K}_4} \sum_{\lambda_1 \mathbf{K}_1} \int d^3 \mathbf{x} I^{-e} \{ \lambda_4 \mathbf{K}_4 | \lambda_1 \mathbf{K}_1 \} (\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \hat{c}_{\lambda_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{c}_{\lambda_1 \mathbf{K}_1} \quad (74)$$

$$+ \sum_{\lambda_4 \mathbf{K}_4} \sum_{\lambda_1 \mathbf{K}_1} \int d^3 \mathbf{x} R \{ \lambda_4 \mathbf{K}_4 | \lambda_1 \mathbf{K}_1 \} (\mathbf{x}) \mathbf{A}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \hat{c}_{\lambda_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{c}_{\lambda_1 \mathbf{K}_1} \quad (75)$$

$$- \sum_{\lambda_4 \mathbf{K}_4} \sum_{\lambda_1 \mathbf{K}_1} \int d^3 \mathbf{x} M_S^{-e} \{ \lambda_4 \mathbf{K}_4 | \lambda_1 \mathbf{K}_1 \} (\mathbf{x}) \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{x}) \hat{c}_{\lambda_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{c}_{\lambda_1 \mathbf{K}_1} \quad (76)$$

$$+ \int d\mathbf{x}^3 \frac{1}{8\pi} \left[(-4\pi c \boldsymbol{\Pi}^T) \cdot (-4\pi c \boldsymbol{\Pi}^T) + \text{rot} \mathbf{A} \cdot \text{rot} \mathbf{A} \right] \quad (77)$$

ただし

$$\begin{aligned}
& H_0 \{ \lambda_4 \mathbf{K}_4 | \lambda_1 \mathbf{K}_1 \} \\
&= \sum_{s,s'} \int d^3 \mathbf{x} b_{\lambda_4 \mathbf{K}_4 s}^*(\mathbf{x}) \left[-\frac{\hbar^2}{2m} \nabla^2 \delta_{s,s'} + U_{s,s'}(\mathbf{x}) \right] b_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s'}(\mathbf{x}) \quad (78)
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
& V \{ \lambda_4 \mathbf{K}_4, \lambda_3 \mathbf{K}_3 | \lambda_2 \mathbf{K}_2, \lambda_1 \mathbf{K}_1 \} \\
&= \sum_{s,s'} \int d^3 \mathbf{x} \int d^3 \mathbf{x}' b_{\lambda_4 \mathbf{K}_4 s}^*(\mathbf{x}) b_{\lambda_3 \mathbf{K}_3 s'}^*(\mathbf{x}') \frac{(-e)^2}{|\mathbf{x} - \mathbf{x}'|} b_{\lambda_2 \mathbf{K}_2 s'}(\mathbf{x}') b_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x}) \quad (79)
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
& \mathbf{I}^{-e} \{ \lambda_4 \mathbf{K}_4 | \lambda_1 \mathbf{K}_1 \}(\mathbf{x}) \\
&= \sum_s \frac{(-e)\hbar}{2im} [b_{\lambda_4 \mathbf{K}_4 s}^*(\mathbf{x}) (\nabla b_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x})) - (\nabla b_{\lambda_4 \mathbf{K}_4 s}^*(\mathbf{x})) b_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x})] \quad (80)
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
& \mathbf{R} \{ \lambda_4 \mathbf{K}_4 | \lambda_1 \mathbf{K}_1 \}(\mathbf{x}) \\
&= \sum_s \frac{(-e)^2}{2mc^2} b_{\lambda_4 \mathbf{K}_4 s}^*(\mathbf{x}) b_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x}) \quad (81)
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
& \mathbf{M}_S^{-e} \{ \lambda_4 \mathbf{K}_4 | \lambda_1 \mathbf{K}_1 \}(\mathbf{x}) \\
&= \sum_{s,s'} b_{\lambda_4 \mathbf{K}_4 s}^*(\mathbf{x}) \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma}_{s,s'} b_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s'}(\mathbf{x}) \quad (82)
\end{aligned}$$

また、以降のために次のものを定義しておく。

$$\begin{aligned}
& \mathbf{I}^{+e} \{ \lambda_4 \mathbf{K}_4 | \lambda_1 \mathbf{K}_1 \}(\mathbf{x}) \\
&= \sum_s \frac{(+e)\hbar}{2im} [b_{\lambda_4 \mathbf{K}_4 s}^*(\mathbf{x}) (\nabla b_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x})) - (\nabla b_{\lambda_4 \mathbf{K}_4 s}^*(\mathbf{x})) b_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x})] \quad (83)
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
& \mathbf{M}_S^{+e} \{ \lambda_4 \mathbf{K}_4 | \lambda_1 \mathbf{K}_1 \}(\mathbf{x}) \\
&= \sum_{s,s'} b_{\lambda_4 \mathbf{K}_4 s}^*(\mathbf{x}) \frac{(+e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma}_{s,s'} b_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s'}(\mathbf{x}) \quad (84)
\end{aligned}$$

5 Denition of Hole Operator

一般的にバンドギャップが eV 程度である半導体では, valence band に電子が詰まっており, valence band にいる電子が励起され conduction band に遷移する。このとき valence band には電子がいた場所に穴があくが, これをホールという粒子として扱うと便利である。このため, ホールを表す演算子を導入する。

5.1 Band index λ

はじめにバンドインデックスについて

$$\text{Conduction Band} \quad \lambda = c \quad (85)$$

$$\text{Valence Band} \quad \lambda = v \quad (86)$$

$$\text{内部自由度を逆転させた Band index} \quad \bar{\lambda} = \bar{c} \text{ or } \bar{v} \quad (87)$$

とおく。

5.2 ホールを表す演算子

Bloch function を用いて表現されたときのホールの演算子 $\hat{d}_{\bar{v}-\mathbf{K}}, \hat{d}_{\bar{v}-\mathbf{K}}^\dagger$ は次のように定義される。

$$\hat{d}_{\bar{v}-\mathbf{K}} \equiv \hat{c}_{v\mathbf{K}}^\dagger \quad (88)$$

$$\hat{d}_{\bar{v}-\mathbf{K}}^\dagger \equiv \hat{c}_{v\mathbf{K}} \quad (89)$$

同様に, Wannier function を用いて表現されたときのホールの演算子 $\hat{d}_{\bar{v}\mathbf{R}}, \hat{d}_{\bar{v}\mathbf{R}}^\dagger$ は次のように定義される。

$$\hat{d}_{\bar{v}\mathbf{R}} \equiv \hat{c}_{v\mathbf{R}}^\dagger \quad (90)$$

$$\hat{d}_{\bar{v}\mathbf{R}}^\dagger \equiv \hat{c}_{v\mathbf{R}} \quad (91)$$

6 Representation of Hamiltonian with hole operator $\hat{d}_{\lambda\mathbf{K}}$ of Bloch Function

6.1 Hamiltonian on hole representation

クーロンゲージを用いた電磁場と相互作用する結晶中の電子のハミルトニアン \hat{H} は、Bloch function による展開のもとでホールを用いて表現すると次のような形になる。

$$\hat{H} = E_M + \hat{H}_M + \hat{H}_{M-P} + \hat{H}_P \quad (92)$$

ここで、 E_M は定数項、 \hat{H}_M は物質系のハミルトニアン、 \hat{H}_{M-P} 物質系と電磁場の相互作用項、 \hat{H}_P は電磁場のハミルトニアンを表している。以降、各項について説明する。

6.2 定数項 E_M

E_M は電子が全て valence band に詰まったときの電子系のエネルギーを与えている。このとき電子間のクーロン相互作用によるエネルギーの効果は、Hartree-Fock 近似の形で入っている。

$$E_M = \sum_{\mathbf{v}\mathbf{K}} \left[H_0 \{ \mathbf{v}\mathbf{K} | \mathbf{v}\mathbf{K} \} + \frac{1}{2} \sum_{\mathbf{v}'\mathbf{K}'} [V \{ \mathbf{v}\mathbf{K}, \mathbf{v}'\mathbf{K}' | \mathbf{v}'\mathbf{K}', \mathbf{v}\mathbf{K} \} - V \{ \mathbf{v}\mathbf{K}, \mathbf{v}'\mathbf{K}' | \mathbf{v}\mathbf{K}, \mathbf{v}'\mathbf{K}' \}] \right] \quad (93)$$

6.3 物質系のハミルトニアン \hat{H}_M

次に、物質系のハミルトニアン \hat{H}_M は、電子とホールの一体項 \hat{H}_1 とクーロン相互作用項 \hat{V} の和として書かれる。

$$\hat{H}_M = \hat{H}_1 + \hat{V} \quad (94)$$

つぎに、これらの各項についてそれぞれ考察する。

電子とホールの 1 体のハミルトニアン \hat{H}_1

電子とホールの 1 体のハミルトニアン \hat{H}_1 は

$$\begin{aligned}
 \hat{H}_1 = & \sum_{c_4 \mathbf{K}_4} \sum_{c_1 \mathbf{K}_1} \left[H_0 \{c_4 \mathbf{K}_4 | c_1 \mathbf{K}_1\} \right. \\
 & + \sum_{v' \mathbf{K}'} [V \{c_4 \mathbf{K}_4, v' \mathbf{K}' | v' \mathbf{K}', c_1 \mathbf{K}_1\} - V \{c_4 \mathbf{K}_4, v' \mathbf{K}' | c_1 \mathbf{K}_1, v' \mathbf{K}'\}] \left. \hat{c}_{c_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{K}_1} \right. \\
 & - \sum_{v_4 \mathbf{K}_4} \sum_{v_1 \mathbf{K}_1} \left[H_0 \{v_1 \mathbf{K}_1 | v_4 \mathbf{K}_4\} \right. \\
 & + \sum_{v' \mathbf{K}'} [V \{v_1 \mathbf{K}_1, v' \mathbf{K}' | v' \mathbf{K}', v_4 \mathbf{K}_4\} - V \{v_1 \mathbf{K}_1, v' \mathbf{K}' | v_4 \mathbf{K}_4, v' \mathbf{K}'\}] \left. \hat{d}_{v_4 - \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 - \mathbf{K}_1} \right. \\
 & + \sum_{c_4 \mathbf{K}_4} \sum_{v_1 \mathbf{K}_1} \left[H_0 \{c_4 \mathbf{K}_4 | v_1 \mathbf{K}_1\} \right. \\
 & + \sum_{v' \mathbf{K}'} [V \{c_4 \mathbf{K}_4, v' \mathbf{K}' | v' \mathbf{K}', v_1 \mathbf{K}_1\} - V \{c_4 \mathbf{K}_4, v' \mathbf{K}' | v_1 \mathbf{K}_1, v' \mathbf{K}'\}] \left. \hat{c}_{c_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 - \mathbf{K}_1}^\dagger \right] \\
 & + (\text{h.c.}) \tag{95}
 \end{aligned}$$

この項は有効な周期的ポテンシャルの導入と適切な Bloch function を用いることにより対角化させることが知られている。これについては次の章で述べる。

クーロン相互作用項 \hat{V}

クーロン相互作用項 \hat{V} は、次のように電子とホールの間の相互作用を表している。

$$\begin{aligned}
\hat{V} = & \frac{1}{2} \sum_{c_4 \mathbf{K}_4} \sum_{c_3 \mathbf{K}_3} \sum_{c_2 \mathbf{K}_2} \sum_{c_1 \mathbf{K}_1} V \{c_4 \mathbf{K}_4, c_3 \mathbf{K}_3 | c_2 \mathbf{K}_2, c_1 \mathbf{K}_1\} \hat{c}_{c_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{c}_{c_3 \mathbf{K}_3}^\dagger \hat{c}_{c_2 \mathbf{K}_2} \hat{c}_{c_1 \mathbf{K}_1} \\
& + \frac{1}{2} \sum_{v_4 \mathbf{K}_4} \sum_{v_3 \mathbf{K}_3} \sum_{v_2 \mathbf{K}_2} \sum_{v_1 \mathbf{K}_1} V \{v_1 \mathbf{K}_1, v_2 \mathbf{K}_2 | v_3 \mathbf{K}_3, v_4 \mathbf{K}_4\} \hat{d}_{v_4 - \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{d}_{v_3 - \mathbf{K}_3}^\dagger \hat{d}_{v_2 - \mathbf{K}_2} \hat{d}_{v_1 - \mathbf{K}_1} \\
& - \sum_{c_4 \mathbf{K}_4} \sum_{v_3 \mathbf{K}_3} \sum_{v_2 \mathbf{K}_2} \sum_{c_1 \mathbf{K}_1} \left[V \{c_4 \mathbf{K}_4, v_2 \mathbf{K}_2 | v_3 \mathbf{K}_3, c_1 \mathbf{K}_1\} - V \{c_4 \mathbf{K}_4, v_2 \mathbf{K}_2 | c_1 \mathbf{K}_1, v_3 \mathbf{K}_3\} \right] \\
& \quad \times \hat{c}_{c_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{d}_{v_3 - \mathbf{K}_3}^\dagger \hat{d}_{v_2 - \mathbf{K}_2} \hat{c}_{c_1 \mathbf{K}_1} \\
& - \sum_{c_4 \mathbf{K}_4} \sum_{v_3 \mathbf{K}_3} \sum_{v_2 \mathbf{K}_2} \sum_{v_1 \mathbf{K}_1} V \{c_4 \mathbf{K}_4, v_1 \mathbf{K}_1 | v_2 \mathbf{K}_2, v_3 \mathbf{K}_3\} \hat{c}_{c_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{d}_{v_3 - \mathbf{K}_3}^\dagger \hat{d}_{v_2 - \mathbf{K}_2} \hat{d}_{v_1 - \mathbf{K}_1} \\
& \quad + (\text{h.c.}) \\
& + \sum_{c_4 \mathbf{K}_4} \sum_{v_3 \mathbf{K}_3} \sum_{c_2 \mathbf{K}_2} \sum_{c_1 \mathbf{K}_1} V \{c_4 \mathbf{K}_4, c_2 \mathbf{K}_2 | c_1 \mathbf{K}_1, v_3 \mathbf{K}_3\} \hat{c}_{c_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{d}_{v_3 - \mathbf{K}_3}^\dagger \hat{c}_{c_2 \mathbf{K}_2} \hat{c}_{c_1 \mathbf{K}_1} \\
& \quad + (\text{h.c.}) \\
& + \frac{1}{2} \sum_{c_4 \mathbf{K}_4} \sum_{c_3 \mathbf{K}_3} \sum_{v_2 \mathbf{K}_2} \sum_{v_1 \mathbf{K}_1} V \{c_4 \mathbf{K}_4, c_3 \mathbf{K}_3 | v_2 \mathbf{K}_2, v_1 \mathbf{K}_1\} \hat{c}_{c_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{c}_{c_3 \mathbf{K}_3}^\dagger \hat{d}_{v_2 - \mathbf{K}_2}^\dagger \hat{d}_{v_1 - \mathbf{K}_1}^\dagger \\
& \quad + (\text{h.c.}) \tag{96}
\end{aligned}$$

1体の演算子が対角化された物質系のハミルトニアン

1体の演算子の部分は、バレンスバンドに電子が詰まった状態についてのハートリーフォック近似を表している。Bloch Function が適切に選ばれるとこの1体の部分は対角されるので、

$$H_M = \sum_{c\mathbf{K}} E_{c\mathbf{K}} \hat{c}_{c\mathbf{K}}^\dagger \hat{c}_{c\mathbf{K}} \quad (97)$$

$$- \sum_{v\mathbf{K}} E_{v\mathbf{K}} \hat{d}_{v-\mathbf{K}}^\dagger \hat{d}_{v-\mathbf{K}} \quad (98)$$

$$+ \frac{1}{2} \sum_{c_4\mathbf{K}_4} \sum_{c_3\mathbf{K}_3} \sum_{c_2\mathbf{K}_2} \sum_{c_1\mathbf{K}_1} V \{c_4\mathbf{K}_4, c_3\mathbf{K}_3 | c_2\mathbf{K}_2, c_1\mathbf{K}_1\} \hat{c}_{c_4\mathbf{K}_4}^\dagger \hat{c}_{c_3\mathbf{K}_3}^\dagger \hat{c}_{c_2\mathbf{K}_2} \hat{c}_{c_1\mathbf{K}_1} \quad (99)$$

$$+ \frac{1}{2} \sum_{v_4\mathbf{K}_4} \sum_{v_3\mathbf{K}_3} \sum_{v_2\mathbf{K}_2} \sum_{v_1\mathbf{K}_1} V \{v_1\mathbf{K}_1, v_2\mathbf{K}_2 | v_3\mathbf{K}_3, v_4\mathbf{K}_4\} \hat{d}_{v_4-\mathbf{K}_4}^\dagger \hat{d}_{v_3-\mathbf{K}_3}^\dagger \hat{d}_{v_2-\mathbf{K}_2} \hat{d}_{v_1-\mathbf{K}_1} \quad (100)$$

$$- \sum_{c_4\mathbf{K}_4} \sum_{v_3\mathbf{K}_3} \sum_{v_2\mathbf{K}_2} \sum_{c_1\mathbf{K}_1} [V \{c_4\mathbf{K}_4, v_2\mathbf{K}_2 | v_3\mathbf{K}_3, c_1\mathbf{K}_1\} - V \{c_4\mathbf{K}_4, v_2\mathbf{K}_2 | c_1\mathbf{K}_1, v_3\mathbf{K}_3\}] \\ \times \hat{c}_{c_4\mathbf{K}_4}^\dagger \hat{d}_{v_3-\mathbf{K}_3}^\dagger \hat{d}_{v_2-\mathbf{K}_2} \hat{c}_{c_1\mathbf{K}_1} \quad (101)$$

$$- \sum_{c_4\mathbf{K}_4} \sum_{v_3\mathbf{K}_3} \sum_{v_2\mathbf{K}_2} \sum_{v_1\mathbf{K}_1} V \{c_4\mathbf{K}_4, v_1\mathbf{K}_1 | v_2\mathbf{K}_2, v_3\mathbf{K}_3\} \hat{c}_{c_4\mathbf{K}_4}^\dagger \hat{d}_{v_3-\mathbf{K}_3}^\dagger \hat{d}_{v_2-\mathbf{K}_2} \hat{d}_{v_1-\mathbf{K}_1} \quad (102)$$

$$+ (\text{h.c.}) \quad (103)$$

$$+ \sum_{c_4\mathbf{K}_4} \sum_{v_3\mathbf{K}_3} \sum_{c_2\mathbf{K}_2} \sum_{c_1\mathbf{K}_1} V \{c_4\mathbf{K}_4, c_2\mathbf{K}_2 | c_1\mathbf{K}_1, v_3\mathbf{K}_3\} \hat{c}_{c_4\mathbf{K}_4}^\dagger \hat{d}_{v_3-\mathbf{K}_3}^\dagger \hat{c}_{c_2\mathbf{K}_2} \hat{c}_{c_1\mathbf{K}_1} \quad (104)$$

$$+ (\text{h.c.}) \quad (105)$$

$$+ \frac{1}{2} \sum_{c_4\mathbf{K}_4} \sum_{c_3\mathbf{K}_3} \sum_{v_2\mathbf{K}_2} \sum_{v_1\mathbf{K}_1} V \{c_4\mathbf{K}_4, c_3\mathbf{K}_3 | v_2\mathbf{K}_2, v_1\mathbf{K}_1\} \hat{c}_{c_4\mathbf{K}_4}^\dagger \hat{c}_{c_3\mathbf{K}_3}^\dagger \hat{d}_{v_2-\mathbf{K}_2} \hat{d}_{v_1-\mathbf{K}_1} \quad (106)$$

$$+ (\text{h.c.}) \quad (107)$$

このとき、 $E_{c\mathbf{K}}$ と $E_{v\mathbf{K}}$ はバンド構造を表す。

半導体を念頭に置いた電子とホールのクーロン相互作用項 \hat{V}

クーロン相互作用の項 \hat{V} は、キャリア間距離が励起子ボーア半径程度であるとき meV 程度の大きさになる。これに対し electron と hole の数の和を保存しない状態間のエネルギー差は典型的な半導体において eV 程度である。よって electron と hole の数の和を保存しないクーロン項は、数の和を保存する状態を無摂動状態としたときに、1/1000 程度の良い近似で摂動項となる。よって第0近似として、electron と hole の数の和を保存しない項を無視することができる。このときクーロン相互作用項 \hat{V} は、

$$\begin{aligned} \hat{V} = & \frac{1}{2} \sum_{c_4 \mathbf{K}_4} \sum_{c_3 \mathbf{K}_3} \sum_{c_2 \mathbf{K}_2} \sum_{c_1 \mathbf{K}_1} V \{c_4 \mathbf{K}_4, c_3 \mathbf{K}_3 | c_2 \mathbf{K}_2, c_1 \mathbf{K}_1\} \hat{c}_{c_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{c}_{c_3 \mathbf{K}_3}^\dagger \hat{c}_{c_2 \mathbf{K}_2} \hat{c}_{c_1 \mathbf{K}_1} \\ & + \frac{1}{2} \sum_{v_4 \mathbf{K}_4} \sum_{v_3 \mathbf{K}_3} \sum_{v_2 \mathbf{K}_2} \sum_{v_1 \mathbf{K}_1} V \{v_1 \mathbf{K}_1, v_2 \mathbf{K}_2 | v_3 \mathbf{K}_3, v_4 \mathbf{K}_4\} \hat{d}_{v_4 - \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{d}_{v_3 - \mathbf{K}_3}^\dagger \hat{d}_{v_2 - \mathbf{K}_2} \hat{d}_{v_1 - \mathbf{K}_1} \\ & - \sum_{c_4 \mathbf{K}_4} \sum_{v_3 \mathbf{K}_3} \sum_{v_2 \mathbf{K}_2} \sum_{c_1 \mathbf{K}_1} \left[V \{c_4 \mathbf{K}_4, v_2 \mathbf{K}_2 | v_3 \mathbf{K}_3, c_1 \mathbf{K}_1\} - V \{c_4 \mathbf{K}_4, v_2 \mathbf{K}_2 | c_1 \mathbf{K}_1, v_3 \mathbf{K}_3\} \right] \\ & \times \hat{c}_{c_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{d}_{v_3 - \mathbf{K}_3}^\dagger \hat{d}_{v_2 - \mathbf{K}_2} \hat{c}_{c_1 \mathbf{K}_1} \end{aligned} \quad (108)$$

となる。以下、クーロン相互作用項 \hat{V} として、この式を用いる。

Band Structure と Effective Mass

H_M の1体の項のエネルギーにおいて、 Γ -Pointの周りで波数について展開すると、

$$E_{c\mathbf{K}} = E_g + \sum_{i,j} \frac{1}{m_{cij}} K_i K_j + \dots \quad (109)$$

$$E_{v\mathbf{K}} = - \sum_{i,j} \frac{1}{m_{vij}} K_i K_j + \dots \quad (110)$$

となる。このとき m_{cij} は電子の有効質量、 $-m_{vij} \equiv m_{\bar{v}ij}$ はホールの有効質量である。

物質系と電磁場の相互作用項 \hat{H}_{M-P}

物質系と電磁場の相互作用項 \hat{H}_{M-P} は、電子のバンド内遷移、バンド間遷移に対応して電子とホールのバンド内遷移、電子とホールの対生成、対消滅と形で以下のように記述される。

$$\hat{H}_{M-P} = \hat{H}_{1M-P} + \hat{H}_{2M-P} + \hat{Z}_{M-P} \quad (111)$$

ここで、 \hat{H}_{1M-P} は電子とホールによる電流とベクトルポテンシャル $\mathbf{A}(\mathbf{x})$ との相互作用を表し、ベクトルポテンシャル $\mathbf{A}(\mathbf{x})$ が1乗の形で寄与する項である。また、 \hat{H}_{2M-P} はベクトルポテンシャル $\mathbf{A}(\mathbf{x})$ の2乗の項を含む相互作用を表し、 \hat{Z}_{M-P} は電子とホールのスピンと磁場との相互作用を表す項である。以下に各項の具体的な式を記述する。

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{1M-P} = & -\frac{1}{c} \sum_{c_4 \mathbf{K}_4} \sum_{v_1 \mathbf{K}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 - \mathbf{K}_1}^\dagger \int d^3 \mathbf{x} I^{-e} \{c_4 \mathbf{K}_4 | v_1 \mathbf{K}_1\}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \\
& + (\text{h.c.}) \\
& -\frac{1}{c} \sum_{c_4 \mathbf{K}_4} \sum_{c_1 \mathbf{K}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{K}_1} \int d^3 \mathbf{x} I^{-e} \{c_4 \mathbf{K}_4 | c_1 \mathbf{K}_1\}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \\
& -\frac{1}{c} \sum_{v_4 \mathbf{K}_4} \sum_{v_1 \mathbf{K}_1} \hat{d}_{v_4 - \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 - \mathbf{K}_1} \int d^3 \mathbf{x} I^{+e} \{v_1 \mathbf{K}_1 | v_4 \mathbf{K}_4\}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x})
\end{aligned} \tag{112}$$

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{2M-P} = & \sum_{c_4 \mathbf{K}_4} \sum_{v_1 \mathbf{K}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 - \mathbf{K}_1}^\dagger \int d^3 \mathbf{x} R \{c_4 \mathbf{K}_4 | v_1 \mathbf{K}_1\}(\mathbf{x}) \mathbf{A}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \\
& + (\text{h.c.}) \\
& + \sum_{c_4 \mathbf{K}_4} \sum_{c_1 \mathbf{K}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{K}_1} \int d^3 \mathbf{x} R \{c_4 \mathbf{K}_4 | c_1 \mathbf{K}_1\}(\mathbf{x}) \mathbf{A}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \\
& - \sum_{v_4 \mathbf{K}_4} \sum_{v_1 \mathbf{K}_1} \hat{d}_{v_4 - \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 - \mathbf{K}_1} \int d^3 \mathbf{x} R \{v_1 \mathbf{K}_1 | v_4 \mathbf{K}_4\}(\mathbf{x}) \mathbf{A}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x})
\end{aligned} \tag{113}$$

$$\begin{aligned}
\hat{Z}_{M-P} = & -\sum_{c_4 \mathbf{K}_4} \sum_{v_1 \mathbf{K}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 - \mathbf{K}_1}^\dagger \int d^3 \mathbf{x} M_S^{-e} \{c_4 \mathbf{K}_4 | v_1 \mathbf{K}_1\}(\mathbf{x}) \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{x}) \\
& + (\text{h.c.}) \\
& - \sum_{c_4 \mathbf{K}_4} \sum_{c_1 \mathbf{K}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{K}_1} \int d^3 \mathbf{x} M_S^{-e} \{c_4 \mathbf{K}_4 | c_1 \mathbf{K}_1\}(\mathbf{x}) \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{x}) \\
& - \sum_{v_4 \mathbf{K}_4} \sum_{v_1 \mathbf{K}_1} \hat{d}_{v_4 - \mathbf{K}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 - \mathbf{K}_1} \int d^3 \mathbf{x} M_S^{+e} \{v_1 \mathbf{K}_1 | v_4 \mathbf{K}_4\}(\mathbf{x}) \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{x})
\end{aligned} \tag{114}$$

電磁場のハミルトニアン

最後に電磁場のハミルトニアンは、以下のようになる。

$$\begin{aligned}
 \hat{H}_P = & \int d\mathbf{x}^3 \frac{1}{8\pi} \left[(-4\pi c \boldsymbol{\Pi}^T) \cdot (-4\pi c \boldsymbol{\Pi}^T) + \text{rot} \mathbf{A} \cdot \text{rot} \mathbf{A} \right] \\
 & - \frac{1}{c} \sum_{\mathbf{v}\mathbf{K}} \int d^3\mathbf{x} I^{-e} \{ \mathbf{v}\mathbf{K} | \mathbf{v}\mathbf{K} \} (\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \\
 & + \sum_{\mathbf{v}\mathbf{K}} \int d^3\mathbf{x} R \{ \mathbf{v}\mathbf{K} | \mathbf{v}\mathbf{K} \} (\mathbf{x}) \mathbf{A}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \\
 & - \sum_{\mathbf{v}\mathbf{K}} \int d^3\mathbf{x} M_S^{-e} \{ \mathbf{v}\mathbf{K} | \mathbf{v}\mathbf{K} \} (\mathbf{x}) \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{x}) \quad (115)
 \end{aligned}$$

ここで、の第2項から第3項は valence band に電子が全て詰まっているときの電子と電磁場の相互作用を表している。

7 Diagonalization of one-body Hamiltonian \hat{H}_1

この章では、電子とホールの一体のハミルトニアン \hat{H}_1 において、Hartree-Fock 近似で表される電子とホールのクーロン相互作用項を1体のポテンシャル項とみなすことにより、電子とホールは有効ポテンシャル中の自由な粒子として振舞うことになる。以下では、周期的な有効ポテンシャル $U_{s's}^{\text{eff}}(\mathbf{x})$ の導入と、Bloch function による \hat{H}_1 の対角化とエネルギー固有値について説明する。

7.1 有効ポテンシャルの導入

電子とホールの1体のハミルトニアン \hat{H}_1 における係数を以下のように周期的な有効ポテンシャル $U_{s's}^{\text{eff}}(\mathbf{x})$ を用いて表すこととする。このときこの係数を以下のように $H^{\text{eff}} \{ \lambda' \mathbf{K}' | \lambda \mathbf{K} \}$ とする。

$$\begin{aligned}
 H_0 \{ \lambda' \mathbf{K}' | \lambda \mathbf{K} \} + \sum_{\mathbf{v}''\mathbf{K}''} \left[V \{ \lambda' \mathbf{K}', \mathbf{v}''\mathbf{K}'' | \mathbf{v}''\mathbf{K}'', \lambda \mathbf{K} \} - V \{ \lambda' \mathbf{K}', \mathbf{v}''\mathbf{K}'' | \lambda \mathbf{K}, \mathbf{v}''\mathbf{K}'' \} \right] \\
 = H^{\text{eff}} \{ \lambda' \mathbf{K}' | \lambda \mathbf{K} \} \quad (116)
 \end{aligned}$$

$$H^{\text{eff}} \{ \lambda' \mathbf{K}' | \lambda \mathbf{K} \} = \sum_{s's} \int_v d\mathbf{x} b_{\lambda'\mathbf{K}'}^*(s', \mathbf{x}) \left[-\frac{\hbar^2}{2m} \nabla^2 + U_{s's}^{\text{eff}}(\mathbf{x}) \right] b_{\lambda\mathbf{K}}(s, \mathbf{x}) \quad (117)$$

また H^{eff} は, Bra-Cket 表示を使って, 以下のように書くことができる。

$$H^{\text{eff}} \{ \lambda' \mathbf{K}' | \lambda \mathbf{K} \} = \langle \lambda' \mathbf{K}', \mathbf{K}' | \hat{H}_1^{\text{eff}} | \lambda \mathbf{K}, \mathbf{K} \rangle \quad (118)$$

ここで \hat{H}_1^{eff} は

$$\hat{H}_1^{\text{eff}} = \frac{\hat{\mathbf{P}}^2}{2m} + U^{\text{eff}}(\hat{\mathbf{x}}) \quad (119)$$

であり, 有効ポテンシャルを表す演算子 $U^{\text{eff}}(\hat{\mathbf{x}})$ については結晶格子の周期性をもつものとし, 任意の並進ベクトルに対し

$$U^{\text{eff}}(\hat{\mathbf{x}} + \mathbf{T}) = U^{\text{eff}}(\hat{\mathbf{x}}) \quad (120)$$

が成り立つものとする。このため \hat{H}_1^{eff} も同様の周期性をもつものとする。

このとき 1 体のハミルトニアン \hat{H}_1 は

$$\hat{H}_1 = \sum_{c'c} \sum_{\mathbf{K}'\mathbf{K}} \langle c' \mathbf{K}', \mathbf{K}' | \hat{H}_1^{\text{eff}} | c \mathbf{K}, \mathbf{K} \rangle \hat{c}_{c'\mathbf{K}'}^\dagger \hat{c}_{c\mathbf{K}} \quad (121)$$

$$- \sum_{v'v} \sum_{\mathbf{K}'\mathbf{K}} \langle v' \mathbf{K}', \mathbf{K}' | \hat{H}_1^{\text{eff}} | v \mathbf{K}, \mathbf{K} \rangle \hat{d}_{v-\mathbf{K}}^\dagger \hat{d}_{v'-\mathbf{K}'} \quad (122)$$

$$+ \sum_{c'v} \sum_{\mathbf{K}'\mathbf{K}} \langle c' \mathbf{K}', \mathbf{K}' | \hat{H}_1^{\text{eff}} | v \mathbf{K}, \mathbf{K} \rangle \hat{c}_{c'\mathbf{K}'}^\dagger \hat{d}_{v-\mathbf{K}}^\dagger \quad (123)$$

$$+ \sum_{v'c} \sum_{\mathbf{K}'\mathbf{K}} \langle v' \mathbf{K}', \mathbf{K}' | \hat{H}_1^{\text{eff}} | c \mathbf{K}, \mathbf{K} \rangle \hat{d}_{v'-\mathbf{K}'}^\dagger \hat{c}_{c\mathbf{K}} \quad (124)$$

と表される。

7.2 有効ポテンシャルにおける Bloch function $|\lambda \mathbf{k}, \mathbf{k} \rangle$ と \hat{H}_1 の対角化

適切な Bloch function $|\lambda \mathbf{k}, \mathbf{k} \rangle$ は, 以下のように \hat{H}_1^{eff} の固有状態となることができる。

$$\left(\frac{\hat{\mathbf{P}}^2}{2m} + U^{\text{eff}}(\hat{\mathbf{x}}) \right) |\lambda \mathbf{k}, \mathbf{k} \rangle = E_\lambda(\mathbf{k}) |\lambda \mathbf{k}, \mathbf{k} \rangle \quad (125)$$

これより \hat{H}_1^{eff} は Bra-Cket を用いて,

$$\frac{\mathbf{P}^2}{2m} + U_{s's}^{\text{eff}}(\mathbf{x}) = \sum_{\lambda \mathbf{k}} |\lambda \mathbf{k}, \mathbf{k} \rangle E_\lambda(\mathbf{k}) \langle \lambda \mathbf{k}, \mathbf{k} | \quad (126)$$

と表すこともできる。

これより \hat{H}_1 は

$$\hat{H}_1 = \sum_c \sum_{\mathbf{K}} E_c(\mathbf{K}) \hat{c}_{c\mathbf{K}}^\dagger \hat{c}_{c\mathbf{K}} \quad (127)$$

$$- \sum_v \sum_{\mathbf{K}} E_v(\mathbf{K}) \hat{d}_{v-\mathbf{K}}^\dagger \hat{d}_{v-\mathbf{K}} \quad (128)$$

と対角化される。

また,

$$\left\{ \left(\frac{(\mathbf{p} + \hbar\mathbf{k})^2}{2m} + U_{s's}^{\text{eff}}(\mathbf{x}) \right) |\lambda\mathbf{k}\rangle \right\} |\mathbf{k}\rangle = \left\{ E_\lambda(\mathbf{k}) |\lambda\mathbf{k}\rangle \right\} |\mathbf{k}\rangle \quad (129)$$

であることから, 括弧内だけに注目し,

$$\left(\frac{(\mathbf{p} + \hbar\mathbf{k})^2}{2m} + U_{s's}^{\text{eff}}(\mathbf{x}) \right) |\lambda\mathbf{k}\rangle = E_\lambda(\mathbf{k}) |\lambda\mathbf{k}\rangle \quad (130)$$

と書く。

これを变形すると,

$$\left(\hat{h} + \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \right) |\lambda\mathbf{k}\rangle = \epsilon_\lambda(\mathbf{k}) |\lambda\mathbf{k}\rangle \quad (131)$$

ここで,

$$\hat{h} = \frac{\mathbf{p}^2}{2m} + U_{s's}^{\text{eff}}(\mathbf{x}) \quad (132)$$

$$\epsilon_\lambda(\mathbf{k}) = E_\lambda(\mathbf{k}) - \frac{\hbar^2 \mathbf{k}^2}{2m} \quad (133)$$

とおく。

この $\epsilon_\lambda(\mathbf{k})$ をもちいると, \hat{H}_1 は

$$\hat{H}_1 = \sum_c \sum_{\mathbf{K}} \left(\epsilon_c(\mathbf{K}) + \frac{\hbar \mathbf{K}^2}{2m} \right) \hat{c}_{c\mathbf{K}}^\dagger \hat{c}_{c\mathbf{K}} \quad (134)$$

$$- \sum_v \sum_{\mathbf{K}} \left(\epsilon_v(\mathbf{K}) + \frac{\hbar \mathbf{K}^2}{2m} \right) \hat{d}_{v-\mathbf{K}}^\dagger \hat{d}_{v-\mathbf{K}} \quad (135)$$

と表される。

8 Representation of Hamiltonian with Wannier Function

前章では、物質系の1体のハミルトニアン \hat{H}_M についての説明をした。次に物質系と電磁場と相互作用 \hat{H}_{M-P} について考察する。このとき電子とホールの描像として、Wannier function を用いると電磁場との相互作用についての見通しが良くなる。Wannier function の特徴は数サイト程度の広がりしか持たないことである。このため電磁場と電子もしくはホールとの相互作用において、電子やホールの Wannier function の広がり程度において電磁場を定数と見なすことができる。これにより、相互作用の項を単純化して表すことができるようになる。

この章では、Wannier function で表したハミルトニアンを記述する。ハミルトニアン \hat{H} は以下のように4つの項から成り立っていた。

$$\hat{H} = E_M + \hat{H}_M + \hat{H}_{M-P} + \hat{H}_P \quad (136)$$

以降、各項を Wannier function で表したものを記述する。その準備として、以下の各関数を定義する。

$$\begin{aligned}
& H_0 \{ \lambda_4 \mathbf{R}_4 | \lambda_1 \mathbf{R}_1 \} \\
&= \sum_{s,s'} \int d^3 \mathbf{x} w_{\lambda_4 \mathbf{R}_4 s}^*(\mathbf{x}) \left[-\frac{\hbar^2}{2m} \nabla^2 \delta_{s,s'} + U_{s,s'}^{\text{eff}}(\mathbf{x}) \right] w_{\lambda_1 \mathbf{R}_1 s'}(\mathbf{x}) \\
& V \{ \lambda_4 \mathbf{R}_4, \lambda_3 \mathbf{R}_3 | \lambda_2 \mathbf{R}_2, \lambda_1 \mathbf{R}_1 \} \\
&= \sum_{s,s'} \int d^3 \mathbf{x} \int d^3 \mathbf{x}' w_{\lambda_4 \mathbf{R}_4 s}^*(\mathbf{x}) w_{\lambda_3 \mathbf{R}_3 s'}^*(\mathbf{x}') \frac{(-e)^2}{|\mathbf{x} - \mathbf{x}'|} w_{\lambda_2 \mathbf{R}_2 s'}(\mathbf{x}') w_{\lambda_1 \mathbf{R}_1 s}(\mathbf{x})
\end{aligned} \tag{137}$$

$$\begin{aligned}
& I^{-e} \{ \lambda_4 \mathbf{R}_4 | \lambda_1 \mathbf{R}_1 \}(\mathbf{x}) \\
&= \sum_s \frac{(-e)\hbar}{2im} \left[w_{\lambda_4 \mathbf{R}_4 s}^*(\mathbf{x}) (\nabla w_{\lambda_1 \mathbf{R}_1 s}(\mathbf{x})) - (\nabla w_{\lambda_4 \mathbf{R}_4 s}^*(\mathbf{x})) w_{\lambda_1 \mathbf{R}_1 s}(\mathbf{x}) \right]
\end{aligned} \tag{138}$$

$$\begin{aligned}
& I^{+e} \{ \lambda_4 \mathbf{R}_4 | \lambda_1 \mathbf{R}_1 \}(\mathbf{x}) \\
&= \sum_s \frac{(+e)\hbar}{2im} \left[w_{\lambda_4 \mathbf{R}_4 s}^*(\mathbf{x}) (\nabla w_{\lambda_1 \mathbf{R}_1 s}(\mathbf{x})) - (\nabla w_{\lambda_4 \mathbf{R}_4 s}^*(\mathbf{x})) w_{\lambda_1 \mathbf{R}_1 s}(\mathbf{x}) \right]
\end{aligned} \tag{139}$$

$$\begin{aligned}
& R \{ \lambda_4 \mathbf{R}_4 | \lambda_1 \mathbf{R}_1 \}(\mathbf{x}) \\
&= \sum_s \frac{(-e)^2}{2mc^2} w_{\lambda_4 \mathbf{R}_4 s}^*(\mathbf{x}) w_{\lambda_1 \mathbf{R}_1 s}(\mathbf{x})
\end{aligned} \tag{140}$$

$$\begin{aligned}
& M_S^{-e} \{ \lambda_4 \mathbf{R}_4 | \lambda_1 \mathbf{R}_1 \}(\mathbf{x}) \\
&= \sum_{s,s'} w_{\lambda_4 \mathbf{R}_4 s}^*(\mathbf{x}) \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma}_{s,s'} w_{\lambda_1 \mathbf{R}_1 s'}(\mathbf{x})
\end{aligned} \tag{141}$$

$$\begin{aligned}
& M_S^{+e} \{ \lambda_4 \mathbf{R}_4 | \lambda_1 \mathbf{R}_1 \}(\mathbf{x}) \\
&= \sum_{s,s'} w_{\lambda_4 \mathbf{R}_4 s}^*(\mathbf{x}) \frac{(+e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma}_{s,s'} w_{\lambda_1 \mathbf{R}_1 s'}(\mathbf{x})
\end{aligned} \tag{142}$$

8.1 Constant E_M

定数項 E_M は次のように表される。

$$E_M = \sum_{\mathbf{vR}} \left[H_0 \{ \mathbf{vR} | \mathbf{vR} \} + \frac{1}{2} \sum_{\mathbf{v'R'}} \left[V \{ \mathbf{vR}, \mathbf{v'R'} | \mathbf{v'R'}, \mathbf{vR} \} - V \{ \mathbf{vR}, \mathbf{v'R'} | \mathbf{vR}, \mathbf{v'R'} \} \right] \right] \tag{143}$$

8.2 物質系のハミルトニアン \hat{H}_M

次に物質系のハミルトニアン \hat{H}_M は 1 体のハミルトニアン \hat{H}_1 とクーロン相互作用項 \hat{V} の和として次のように表される。

$$\hat{H}_M = \hat{H}_1 + \hat{V}$$

ここで \hat{H}_1 については

$$\hat{H}_1 = \sum_{\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \left(\frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} E_{\mathbf{c}\mathbf{K}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \right) \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}_1} \quad (144)$$

$$+ \sum_{\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \left(-\frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} E_{\mathbf{v}-\mathbf{K}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \right) \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}_1} \quad (145)$$

また \hat{V} については

$$\hat{V} = \frac{1}{2} \sum_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4} \sum_{\mathbf{c}_3 \mathbf{R}_3} \sum_{\mathbf{c}_2 \mathbf{R}_2} \sum_{\mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1} V \{ \mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4, \mathbf{c}_3 \mathbf{R}_3 | \mathbf{c}_2 \mathbf{R}_2, \mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1 \} \hat{c}_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}_3 \mathbf{R}_3}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}_2 \mathbf{R}_2} \hat{c}_{\mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1} \quad (146)$$

$$+ \frac{1}{2} \sum_{\mathbf{v}_4 \mathbf{R}_4} \sum_{\mathbf{v}_3 \mathbf{R}_3} \sum_{\mathbf{v}_2 \mathbf{R}_2} \sum_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1} V \{ \mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1, \mathbf{v}_2 \mathbf{R}_2 | \mathbf{v}_3 \mathbf{R}_3, \mathbf{v}_4 \mathbf{R}_4 \} \hat{d}_{\mathbf{v}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_3 \mathbf{R}_3}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_2 \mathbf{R}_2} \hat{d}_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1} \quad (147)$$

$$- \sum_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4} \sum_{\mathbf{v}_3 \mathbf{R}_3} \sum_{\mathbf{v}_2 \mathbf{R}_2} \sum_{\mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1} \left[V \{ \mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4, \mathbf{v}_2 \mathbf{R}_2 | \mathbf{v}_3 \mathbf{R}_3, \mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1 \} \right. \\ \left. - V \{ \mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4, \mathbf{v}_2 \mathbf{R}_2 | \mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1, \mathbf{v}_3 \mathbf{R}_3 \} \right] \hat{c}_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_3 \mathbf{R}_3}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_2 \mathbf{R}_2} \hat{c}_{\mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1} \quad (148)$$

と表される。

8.3 物質と電磁場の相互作用項 \hat{H}_{M-P}

物質と電磁場の相互作用項 \hat{H}_{M-P} は以下のような 3 項からなる。

$$\hat{H}_{M-P} = \hat{H}_{1M-P} + \hat{H}_{2M-P} + \hat{Z}_{M-P} \quad (149)$$

ここで,

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{1M-P} = & -\frac{1}{c} \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \int d^3 \mathbf{x} I^{-e} \{c_4 \mathbf{R}_4 | v_1 \mathbf{R}_1\}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \\
& + (\text{h.c.}) \\
& -\frac{1}{c} \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{c_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \int d^3 \mathbf{x} I^{-e} \{c_4 \mathbf{R}_4 | c_1 \mathbf{R}_1\}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \\
& -\frac{1}{c} \sum_{v_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1} \int d^3 \mathbf{x} I^{+e} \{v_1 \mathbf{R}_1 | v_4 \mathbf{R}_4\}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x})
\end{aligned} \tag{150}$$

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{2M-P} = & \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \int d^3 \mathbf{x} R \{c_4 \mathbf{R}_4 | v_1 \mathbf{R}_1\}(\mathbf{x}) \mathbf{A}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \\
& + (\text{h.c.}) \\
& + \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{c_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \int d^3 \mathbf{x} R \{c_4 \mathbf{R}_4 | c_1 \mathbf{R}_1\}(\mathbf{x}) \mathbf{A}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \\
& - \sum_{v_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1} \int d^3 \mathbf{x} R \{v_1 \mathbf{R}_1 | v_4 \mathbf{R}_4\}(\mathbf{x}) \mathbf{A}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x})
\end{aligned} \tag{151}$$

$$\begin{aligned}
\hat{Z}_{M-P} = & -\sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \int d^3 \mathbf{x} M_S^{-e} \{c_4 \mathbf{R}_4 | v_1 \mathbf{R}_1\}(\mathbf{x}) \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{x}) \\
& + (\text{h.c.}) \\
& - \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{c_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \int d^3 \mathbf{x} M_S^{-e} \{c_4 \mathbf{R}_4 | c_1 \mathbf{R}_1\}(\mathbf{x}) \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{x}) \\
& - \sum_{v_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1} \int d^3 \mathbf{x} M_S^{+e} \{v_1 \mathbf{R}_1 | v_4 \mathbf{R}_4\}(\mathbf{x}) \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{x})
\end{aligned} \tag{152}$$

8.4 電磁場の粗視化の導入

ここで Wannier Function の局在性を考慮し、各サイトで電磁場の平均（粗視化）を導入する。

$$\bar{\mathbf{A}}(\mathbf{R}) \equiv \int_{\text{1-site-volume } v \text{ around } \mathbf{R}} d^3 \mathbf{x} \mathbf{A}(\mathbf{x}) \quad (153)$$

$$\rightarrow \text{簡単のため } \mathbf{A}(\mathbf{R}) \text{ で表す} \quad (154)$$

$$\bar{\mathbf{E}}(\mathbf{R}) \equiv \int_{\text{1-site-volume } v \text{ around } \mathbf{R}} d^3 \mathbf{x} \mathbf{E}(\mathbf{x}) \quad (155)$$

$$\rightarrow \text{簡単のため } \mathbf{E}(\mathbf{R}) \text{ で表す} \quad (156)$$

8.5 粗視化した電磁場を用いた光と物質の相互作用ハミルトニアン \hat{H}_{M-P}

上記のように、電子やホールが Wannier function で表されているとき、各相互作用項は \mathbf{R}_1 と \mathbf{R}_4 に局在する Wannier function の重なり積分の形で表現される。このため \mathbf{R}_1 と \mathbf{R}_4 は Wannier function の広がり程度しか離れることはできない。よって相互作用に出てくる空間積分においては \mathbf{R}_1 もしくは \mathbf{R}_4 の近傍のみが重要となる。その範囲において粗視化された電磁場は定数と見なすことができるので、積分の外に出すことができる。このとき電磁場の値は \mathbf{R}_1 と \mathbf{R}_4 の中間地点での値をもつものとする、以下のように相互作用項 \hat{H}_{M-P} の各項を書くことができる。

$$\begin{aligned} \hat{H}_{1M-P} = & -\frac{1}{c} \sum_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4} \sum_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \cdot \int d^3 \mathbf{x} \mathbf{I}^{-e} \{ \mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4 | \mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1 \} (\mathbf{x}) \\ & + (\text{h.c.}) \\ & -\frac{1}{c} \sum_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4} \sum_{\mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \cdot \int d^3 \mathbf{x} \mathbf{I}^{-e} \{ \mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4 | \mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1 \} (\mathbf{x}) \\ & -\frac{1}{c} \sum_{\mathbf{v}_4 \mathbf{R}_4} \sum_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{\mathbf{v}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \cdot \int d^3 \mathbf{x} \mathbf{I}^{+e} \{ \mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1 | \mathbf{v}_4 \mathbf{R}_4 \} (\mathbf{x}) \end{aligned} \quad (157)$$

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{2M-P} = & + \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \cdot \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \int d^3 \mathbf{x} R \{c_4 \mathbf{R}_4 | v_1 \mathbf{R}_1\}(\mathbf{x}) \\
& + (\text{h.c.}) \\
& + \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{c_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \cdot \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \int d^3 \mathbf{x} R \{c_4 \mathbf{R}_4 | c_1 \mathbf{R}_1\}(\mathbf{x}) \\
& - \sum_{v_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \cdot \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \int d^3 \mathbf{x} R \{v_1 \mathbf{R}_1 | v_4 \mathbf{R}_4\}(\mathbf{x})
\end{aligned} \tag{158}$$

$$\begin{aligned}
\hat{Z}_{M-P} = & - \frac{1}{c} \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \cdot \int d^3 \mathbf{x} \text{rot } c M_S^{-e} \{c_4 \mathbf{R}_4 | v_1 \mathbf{R}_1\}(\mathbf{x}) \\
& + (\text{h.c.}) \\
& - \frac{1}{c} \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{c_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \cdot \int d^3 \mathbf{x} \text{rot } c M_S^{-e} \{c_4 \mathbf{R}_4 | c_1 \mathbf{R}_1\}(\mathbf{x}) \\
& - \frac{1}{c} \sum_{v_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \cdot \int d^3 \mathbf{x} \text{rot } c M_S^{+e} \{v_1 \mathbf{R}_1 | v_4 \mathbf{R}_4\}(\mathbf{x})
\end{aligned} \tag{159}$$

ここで、記述を簡単化するため以下の関数を定義する。

$$\frac{1}{a_B} \left(\frac{e a_B}{\hbar c} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \right) \equiv \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \tag{160}$$

このとき、 $\mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1}$ は波数の次元をもつ量であり、ベクトルポテンシャル $\mathbf{A}(\mathbf{R})$ の大きさは

$$0 < \frac{e a_B}{\hbar c} |\mathbf{A}(\mathbf{R})| < 1 \tag{161}$$

であるとする。

ここで $\mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1}$ と Bra-Cket 表現をすることで \hat{H}_{M-P} をなす3項を以下のように記述する。

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{1M-P} = & \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \langle c_4 \mathbf{R}_4 | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{P}} | v_1 \mathbf{R}_1 \rangle \\
& + (\text{h.c.}) \\
& + \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{c_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \langle c_4 \mathbf{R}_4 | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{P}} | c_1 \mathbf{R}_1 \rangle \\
& - \sum_{v_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4} \langle v_4 \mathbf{R}_4 | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{P}} | v_1 \mathbf{R}_1 \rangle
\end{aligned} \tag{162}$$

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{2M-P} = & + \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \frac{\hbar^2}{2m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1}^2 \langle c_4 \mathbf{R}_4 | v_1 \mathbf{R}_1 \rangle \\
& + (\text{h.c.}) \\
& + \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{c_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \frac{\hbar^2}{2m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1}^2 \langle c_4 \mathbf{R}_4 | c_1 \mathbf{R}_1 \rangle \\
& - \sum_{v_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4} \frac{\hbar^2}{2m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1}^2 \langle v_4 \mathbf{R}_4 | v_1 \mathbf{R}_1 \rangle \quad (163)
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
\hat{Z}_{M-P} = & - \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \text{rot} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \cdot \langle c_4 \mathbf{R}_4 | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | v_1 \mathbf{R}_1 \rangle \\
& + (\text{h.c.}) \\
& - \frac{1}{c} \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{c_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \text{rot} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \cdot \langle c_4 \mathbf{R}_4 | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | c_1 \mathbf{R}_1 \rangle \\
& - \frac{1}{c} \sum_{v_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \cdot \langle v_4 \mathbf{R}_4 | \frac{(+e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | v_1 \mathbf{R}_1 \rangle \quad (164)
\end{aligned}$$

さらに、Bloch function による表現、Wannier function の直交性を用いると \hat{H}_{M-P} の各項は以下のようにまとめられる。

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{1M-P} = & \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle c_4 \mathbf{K}, \mathbf{K} | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{P}} | v_1 \mathbf{K}, \mathbf{K} \rangle \right) \\
& + (\text{h.c.}) \\
& + \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{c_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle c_4 \mathbf{K}, \mathbf{K} | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{P}} | c_1 \mathbf{K}, \mathbf{K} \rangle \right) \\
& - \sum_{v_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle v_4 \mathbf{K}, \mathbf{K} | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{P}} | v_1 \mathbf{K}, \mathbf{K} \rangle \right) \quad (165)
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{2M-P} = & \sum_{c\mathbf{R}} \hat{c}_{c\mathbf{R}}^\dagger \hat{c}_{c\mathbf{R}} \frac{\hbar^2}{2m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}, \mathbf{R}}^2 \\
& - \sum_{v\mathbf{R}} \hat{d}_{v\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{v\mathbf{R}} \frac{\hbar^2}{2m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}, \mathbf{R}}^2 \quad (166)
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
\hat{Z}_{M-P} = & - \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \text{rot} A \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \\
& \cdot \left(\frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle c_4 \mathbf{K}, \mathbf{K} | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | v_1 \mathbf{K}, \mathbf{K} \rangle \right) \\
& + (\text{h.c.}) \\
& - \frac{1}{c} \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{c_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \text{rot} A \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \\
& \cdot \left(\frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle c_4 \mathbf{K}, \mathbf{K} | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | c_1 \mathbf{K}, \mathbf{K} \rangle \right) \\
& - \frac{1}{c} \sum_{v_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4} \text{rot} A \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \\
& \cdot \left(\frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle v_4 \mathbf{K}, \mathbf{K} | \frac{(+e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | v_1 \mathbf{K}, \mathbf{K} \rangle \right)
\end{aligned} \tag{167}$$

さらに、Bloch function による表現を簡単化して以下の \hat{H}_{M-P} の表現を最終的に得ることができる。

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{1M-P} = & \sum_c \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \frac{\hbar^2}{m} \mathbf{K} \cdot \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \right) \\
& + \sum_v \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v \mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{v \mathbf{R}_4} \left(-\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \frac{\hbar^2}{m} \mathbf{K} \cdot \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \right) \\
& + \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle c_4 \mathbf{K} | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{p}} | v_1 \mathbf{K} \rangle \right) \\
& + (\text{h.c.}) \\
& + \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{c_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle c_4 \mathbf{K} | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{p}} | c_1 \mathbf{K} \rangle \right) \\
& - \sum_{v_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle v_4 \mathbf{K} | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{p}} | v_1 \mathbf{K} \rangle \right)
\end{aligned} \tag{168}$$

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{2M-P} = & \sum_{c \mathbf{R}} \hat{c}_{c \mathbf{R}}^\dagger \hat{c}_{c \mathbf{R}} \frac{\hbar^2}{2m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}, \mathbf{R}}^2 \\
& - \sum_{v \mathbf{R}} \hat{d}_{v \mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{v \mathbf{R}} \frac{\hbar^2}{2m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}, \mathbf{R}}^2
\end{aligned} \tag{169}$$

$$\begin{aligned}
\hat{Z}_{M-P} = & - \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \text{rot} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \cdot \left(\frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle c_4 \mathbf{K} | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | v_1 \mathbf{K} \rangle \right) \\
& + (\text{h.c.}) \\
& - \frac{1}{c} \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{c_1 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \text{rot} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \cdot \left(\frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle c_4 \mathbf{K} | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | c_1 \mathbf{K} \rangle \right) \\
& - \frac{1}{c} \sum_{v_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1} \text{rot} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \cdot \left(\frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle v_4 \mathbf{K} | \frac{(+e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | v_1 \mathbf{K} \rangle \right)
\end{aligned} \tag{170}$$

8.6 電磁場のハミルトニアン \hat{H}_P

Wannier function を用いて表現するとき、電磁場のハミルトニアン \hat{H}_P は以下のようになる。

$$\hat{H}_P + \int d\mathbf{x}^3 \frac{1}{8\pi} \left[(-4\pi c \boldsymbol{\Pi}^T) \cdot (-4\pi c \boldsymbol{\Pi}^T) + \text{rot} \mathbf{A} \cdot \text{rot} \mathbf{A} \right] \tag{171}$$

$$- \frac{1}{c} \sum_{v\mathbf{R}} \int d^3 \mathbf{x} I^{-e} \{v\mathbf{R}|v\mathbf{R}\}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \tag{172}$$

$$+ \sum_{v\mathbf{R}} \int d^3 \mathbf{x} R \{v\mathbf{R}|v\mathbf{R}\}(\mathbf{x}) \mathbf{A}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \tag{173}$$

$$- \sum_{v\mathbf{R}} \int d^3 \mathbf{x} M_S^{-e} \{v\mathbf{R}|v\mathbf{R}\}(\mathbf{x}) \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{x}) \tag{174}$$

9 H_{1M-P} の式

この章では、 H_{1M-P} をさらに Helman-Feynmann の定理を用いて変形する。そのために Helman-Feynmann の定理の説明から始める。

9.1 数学的準備 : Helman-Feynmann の定理

一般に、あるパラメーター K を含むハミルトニアンを $\hat{H}(K)$ とし、その固有ケット $|a; K\rangle$ 、 $|b; K\rangle$ と固有値 $E_a(K)$ 、 $E_b(K)$ を導入する。このとき

$$\hat{H}(K)|a; K\rangle = E_a(K)|a; K\rangle \quad (175)$$

$$\hat{H}(K)|b; K\rangle = E_b(K)|b; K\rangle \quad (176)$$

$$\langle a; K|a; K\rangle = 1 \quad (177)$$

$$\langle b; K|b; K\rangle = 1 \quad (178)$$

$$\langle a; K|b; K\rangle = 0 \quad (179)$$

となる。またこれより、

$$\frac{\partial}{\partial K} \langle a; K|a; K\rangle = \left(\frac{\partial}{\partial K} \langle a; K| \right) |a; K\rangle + \langle a; K| \left(\frac{\partial}{\partial K} |a; K\rangle \right) = 0 \quad (180)$$

$$\frac{\partial}{\partial K} \langle b; K|b; K\rangle = \left(\frac{\partial}{\partial K} \langle b; K| \right) |b; K\rangle + \langle b; K| \left(\frac{\partial}{\partial K} |b; K\rangle \right) = 0 \quad (181)$$

$$\frac{\partial}{\partial K} \langle b; K|a; K\rangle = \left(\frac{\partial}{\partial K} \langle b; K| \right) |a; K\rangle + \langle b; K| \left(\frac{\partial}{\partial K} |a; K\rangle \right) = 0 \quad (182)$$

これらから以下の定理が証明される。

Helman-Feynmann の定理 1

$|a; K\rangle$ において、

$$\langle a; K| \frac{\partial \hat{H}(K)}{\partial K} |a; K\rangle = \frac{\partial E_a(K)}{\partial K} \quad (183)$$

証明

$$E_a(K) = \langle a; K | \hat{H}(K) | a; K \rangle \quad (184)$$

この両辺を K で微分すると,

$$\begin{aligned} \frac{\partial E_a(K)}{\partial K} &= \langle a; K | \frac{\partial \hat{H}(K)}{\partial K} | a; K \rangle \\ &+ E_a(K) \left(\frac{\partial}{\partial K} \langle a; K | \right) | a; K \rangle + E_a(K) \langle a; K | \left(\frac{\partial}{\partial K} | a; K \rangle \right) \end{aligned} \quad (185)$$

$$\begin{aligned} &= \langle a; K | \frac{\partial \hat{H}(K)}{\partial K} | a; K \rangle \\ &+ E_a(K) \frac{\partial}{\partial K} \langle a; K | a; K \rangle \end{aligned} \quad (186)$$

$$= \langle a; K | \frac{\partial \hat{H}(K)}{\partial K} | a; K \rangle \quad (187)$$

Helman-Feynmann の定理 2

$E_a(K)$ と $E_b(K)$ が縮退している, つまり $E_a(K) = E_b(K)$ のとき,

$$\langle b; K | \frac{\partial \hat{H}(K)}{\partial K} | a; K \rangle = 0 \quad (188)$$

証明

$$\langle b; K | \hat{H}(K) | a; K \rangle = 0 \quad (189)$$

この両辺を K で微分すると,

$$0 = \frac{\partial}{\partial K} \langle b; K | \hat{H}(K) | a; K \rangle \quad (190)$$

$$\begin{aligned} &= \langle b; K | \frac{\partial \hat{H}(K)}{\partial K} | a; K \rangle \\ &+ E_a(K) \left(\frac{\partial}{\partial K} \langle b; K | \right) | a; K \rangle + E_b(K) \langle b; K | \left(\frac{\partial}{\partial K} | a; K \rangle \right) \end{aligned} \quad (191)$$

$$\begin{aligned} &= \langle b; K | \frac{\partial \hat{H}(K)}{\partial K} | a; K \rangle \\ &+ E_a(K) \frac{\partial}{\partial K} \langle b; K | a; K \rangle \end{aligned} \quad (192)$$

$$= \langle b; K | \frac{\partial \hat{H}(K)}{\partial K} | a; K \rangle \quad (193)$$

Helman-Feynmann の定理 (まとめ)

以上より, Helman-Feynmann の定理は以下のように表される。

$E_a(K) = E_b(K)$ を満たす 2 つの状態 $|a; K\rangle$, $|b; K\rangle$ に対して,

$$\langle b; K | \frac{\partial \hat{H}(K)}{\partial K} | a; K \rangle = \frac{\partial E_a(K)}{\partial K} \delta_{b,a} \quad (194)$$

9.2 $\langle \lambda_4 \mathbf{K} | \hat{p} | \lambda_1 \mathbf{K} \rangle$ の計算

$|\lambda \mathbf{K}\rangle$ は次の固有値方程式

$$\left(\hat{h} + \frac{\hbar}{m} \mathbf{K} \cdot \hat{\mathbf{p}} \right) |\lambda \mathbf{K}\rangle = \epsilon_\lambda(\mathbf{K}) |\lambda \mathbf{K}\rangle \quad (195)$$

を満たす。ここで,

$$\hat{h} = \frac{\mathbf{p}^2}{2m} + U_{s's}^{\text{eff}}(\mathbf{x}) \quad (196)$$

$$\epsilon_\lambda(\mathbf{k}) = E_\lambda(\mathbf{k}) - \frac{\hbar^2 \mathbf{k}^2}{2m} \quad (197)$$

であった。

ここで

$$\hat{H}(\mathbf{K}) \equiv \hat{h} + \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \hat{\mathbf{p}} \quad (198)$$

とおくと, $\hat{H}(\mathbf{K})$ はパラメータを \mathbf{K} とするハミルトニアンとなるので, これに Helman-Feynmann の定理を適用すると, $\epsilon_{\lambda_4}(\mathbf{K}) = \epsilon_{\lambda_1}(\mathbf{K})$ である 2 つの状態 $|\lambda_1 \mathbf{K}\rangle$, $|\lambda_4 \mathbf{K}\rangle$ において

$$\begin{aligned} \langle \lambda_4 \mathbf{K} | \frac{\hbar}{m} \hat{\mathbf{p}} | \lambda_1 \mathbf{K} \rangle &= \frac{\partial \epsilon_{\lambda_1}(\mathbf{K})}{\partial \mathbf{K}} \delta_{\lambda_4 \lambda_1} \\ &= \left(\frac{\partial E_{\lambda_1}(\mathbf{K})}{\partial \mathbf{K}} - \frac{\hbar^2}{m} \mathbf{K} \right) \delta_{\lambda_4 \lambda_1} \end{aligned} \quad (199)$$

9.3 \hat{H}_{1M-P} の式

上述の計算を \hat{H}_{1M-P} に用いることにより, 以下のような \hat{H}_{1M-P} の式を得ることができる。

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{1M-P} = & \sum_{\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{\mathbf{c} \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c} \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \frac{\partial E_{\mathbf{c}}(\mathbf{K})}{\partial \mathbf{K}} \cdot \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \right) \\
& + \sum_{\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{\mathbf{v} \mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v} \mathbf{R}_4} \sum_{\mathbf{K}} \left(-\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \frac{\partial E_{\mathbf{v}}(\mathbf{K})}{\partial \mathbf{K}} \cdot \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \right) \\
& + \sum_{\mathbf{c}_4 \mathbf{v}_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle \mathbf{c}_4 \mathbf{K} | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{p}} | \mathbf{v}_1 \mathbf{K} \rangle \right) \\
& \quad \quad \quad + (\text{h.c.}) \\
& + \sum_{\mathbf{c}_4 \neq \mathbf{c}_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle \mathbf{c}_4 \mathbf{K} | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{p}} | \mathbf{c}_1 \mathbf{K} \rangle \right) \\
& - \sum_{\mathbf{v}_4 \neq \mathbf{v}_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_4 \mathbf{R}_4} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle \mathbf{v}_4 \mathbf{K} | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{p}} | \mathbf{v}_1 \mathbf{K} \rangle \right)
\end{aligned} \tag{200}$$

ただし, 最後の2項における \mathbf{c}_4 と \mathbf{c}_1 についてと \mathbf{v}_4 と \mathbf{v}_1 についてのそれぞれの和は, エネルギーの縮退していない状態での和をとるものとする。

10 H_{1M-P} についての考察

この章では, H_{1M-P} の具体的な意味について考察を行う。

$\int d^3 \mathbf{x} I^{-e\{\lambda_4 \mathbf{K}_4 | \lambda_1 \mathbf{K}_1\}}(\mathbf{x})$ について

$\int d^3 \mathbf{x} I^{-e\{\lambda_4 \mathbf{K}_4 | \lambda_1 \mathbf{K}_1\}}(\mathbf{x})$ は

$$b_{\lambda \mathbf{K}_s}(\mathbf{x}) = u_{\lambda \mathbf{K}_s}(\mathbf{x}) \frac{1}{\sqrt{N}} e^{i\mathbf{K} \mathbf{x}} \tag{201}$$

を用いると,

$$\begin{aligned}
& \int d^3\mathbf{x} \mathbf{I}^{-e} \{ \lambda_4 \mathbf{K}_4 | \lambda_1 \mathbf{K}_1 \} (\mathbf{x}) \\
&= \sum_s \int d^3\mathbf{x} \frac{(-e)\hbar}{2im} [b_{\lambda_4 \mathbf{K}_4 s}^*(\mathbf{x}) (\nabla b_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x}-)) - (\nabla b_{\lambda_4 \mathbf{K}_4 s}^*(\mathbf{x})) b_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x})]
\end{aligned} \tag{202}$$

$$= \sum_s \int d^3\mathbf{x} \frac{(-e)\hbar}{im} [b_{\lambda_4 \mathbf{K}_4 s}^*(\mathbf{x}) (\nabla b_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x}))] \tag{203}$$

$$= \sum_{\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i(\mathbf{K}_4 - \mathbf{K}_1)\mathbf{R}} \sum_s \int_v d^3\mathbf{x} \frac{(-e)\hbar}{im} [u_{\lambda_4 \mathbf{K}_4 s}^*(\mathbf{x}) (\nabla u_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x})) + i\mathbf{K}_1 u_{\lambda_4 \mathbf{K}_4 s}^*(\mathbf{x}) u_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x})] \tag{204}$$

$$= \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} \frac{(-e)\hbar}{im} \sum_s \int_v d^3\mathbf{x} [u_{\lambda_4 \mathbf{K}_1 s}^*(\mathbf{x}) (\nabla u_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x})) + i\mathbf{K}_1 u_{\lambda_4 \mathbf{K}_1 s}^*(\mathbf{x}) u_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x})] \tag{205}$$

$$= \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} \frac{(-e)\hbar}{im} \left[\sum_s \int_v d^3\mathbf{x} u_{\lambda_4 \mathbf{K}_1 s}^*(\mathbf{x}) (\nabla u_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x})) + i\mathbf{K}_1 \delta_{\lambda_4, \lambda_1} \right] \tag{206}$$

$$\tag{207}$$

ここで、Bloch Function において周期的な有効ポテンシャル $U^{\text{eff}}(\mathbf{x})$ を用いて

$$\left[-\frac{\hbar^2}{2m} \nabla^2 \delta_{ss'} + U_{ss'}^{\text{eff}}(\mathbf{x}) \right] b_{\lambda \mathbf{K} s'}(\mathbf{x}) = E_{\lambda \mathbf{K}} b_{\lambda \mathbf{K} s}(\mathbf{x}) \tag{208}$$

が成り立つものとする。ここで

$$b_{\lambda \mathbf{K} s}(\mathbf{x}) = u_{\lambda \mathbf{K} s}(\mathbf{x}) \frac{1}{\sqrt{N}} e^{i\mathbf{K}\mathbf{x}} \tag{209}$$

より、1 サイト内において、

$$\left[-\frac{\hbar^2}{2m} (\nabla + i\mathbf{K})^2 \delta_{ss'} + U_{ss'}^{\text{eff}}(\mathbf{x}) \right] u_{\lambda \mathbf{K} s'}(\mathbf{x}) = E_{\lambda \mathbf{K}} u_{\lambda \mathbf{K} s}(\mathbf{x}) \tag{210}$$

または

$$\left[-\frac{\hbar^2}{2m} \nabla^2 \delta_{ss'} - i\frac{\hbar^2}{m} \mathbf{K} \cdot \nabla \delta_{ss'} + U_{ss'}^{\text{eff}}(\mathbf{x}) \right] u_{\lambda \mathbf{K} s'}(\mathbf{x}) = \left(E_{\lambda \mathbf{K}} - \frac{\hbar^2 \mathbf{K}^2}{2m} \right) u_{\lambda \mathbf{K} s}(\mathbf{x}) \tag{211}$$

よって, $u_{\lambda\mathbf{K}s}(\mathbf{x})$ はパラメーターを \mathbf{K} として, 1 サイト内で定義されるハミルトニアン

$$\hat{H}(\mathbf{K}) = -\frac{\hbar^2}{2m}\nabla^2\delta_{ss'} - i\frac{\hbar^2}{m}\mathbf{K}\cdot\nabla\delta_{ss'} + U_{ss'}^{\text{eff}}(\mathbf{x}) \quad (212)$$

の固有関数であり, 固有値は $E_{\lambda\mathbf{K}} - \frac{\hbar^2\mathbf{K}^2}{2m}$ である。つまり,

$$\hat{H}(\mathbf{K})u_{\lambda\mathbf{K}s}(\mathbf{x}) = \left(E_{\lambda\mathbf{K}} - \frac{\hbar^2\mathbf{K}^2}{2m}\right)u_{\lambda\mathbf{K}s}(\mathbf{x}) \quad (213)$$

$$(214)$$

また1 サイト内において正規直交関係

$$\sum_s \int_v d^3\mathbf{x} u_{\lambda_4\mathbf{K}s}^*(\mathbf{x})u_{\lambda_1\mathbf{K}s}(\mathbf{x}) = \delta_{\lambda_4,\lambda_1} \quad (215)$$

が成り立つ。

この $\hat{H}(\mathbf{K})$, $u_{\lambda\mathbf{K}s}(\mathbf{x})$ に対して Helman-Feynmann の定理を適用すると,

$$\frac{\partial \hat{H}(\mathbf{K})}{\partial K_i} = -i\frac{\hbar^2}{m}\frac{\partial}{\partial x_i}\delta_{ss'} \quad (216)$$

$$\frac{\partial}{\partial K_i} \left(E_{\lambda\mathbf{K}} - \frac{\hbar^2\mathbf{K}^2}{2m}\right) = \frac{\partial E_{\lambda\mathbf{K}}}{\partial K_i} - \frac{\hbar^2}{m}K_i \quad (217)$$

より, $E_{\lambda_4} = E_{\lambda_1}$ を満たす2つのバンド λ_4, λ_1 に対して,

$$\sum_s \int_v d^3\mathbf{x} u_{\lambda_4\mathbf{K}s}^*(\mathbf{x}) (\partial_i u_{\lambda_1\mathbf{K}s}(\mathbf{x})) = \frac{im}{\hbar^2} \frac{\partial E_{\lambda_1\mathbf{K}}}{\partial K_i} \delta_{\lambda_4,\lambda_1} - iK_i \delta_{\lambda_4,\lambda_1} \quad (218)$$

または

$$\sum_s \int_v d^3\mathbf{x} u_{\lambda_4\mathbf{K}s}^*(\mathbf{x}) (\partial_i u_{\lambda_1\mathbf{K}s}(\mathbf{x})) = \frac{im}{\hbar^2} \frac{\partial E_{\lambda_1\mathbf{K}}}{\partial K_i} \delta_{\lambda_4,\lambda_1} - iK_i \delta_{\lambda_4,\lambda_1} \quad (219)$$

ただし,

$$\left(\frac{\partial E_{\lambda\mathbf{K}}}{\partial \mathbf{K}}\right)_i \equiv \frac{\partial E_{\lambda\mathbf{K}}}{\partial K_i} \quad (220)$$

である。

これらより以下の場合に分けて $\int d^3\mathbf{x} I^{-e}\{\lambda_4\mathbf{K}_4|\lambda_1\mathbf{K}_1\}(\mathbf{x})$ の結果を表す。

(1) $\lambda_4 = \lambda_1 (\equiv \lambda)$ のとき ($E_{\lambda_4\mathbf{K}} = E_{\lambda_1\mathbf{K}}$)

$$\begin{aligned} & \int d^3\mathbf{x} I^{-e}\{\lambda\mathbf{K}_4|\lambda\mathbf{K}_1\}(\mathbf{x}) \\ &= \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} \frac{(-e)\hbar}{im} \left[\sum_s \int_v d^3\mathbf{x} u_{\lambda\mathbf{K}_1s}^*(\mathbf{x}) (\nabla u_{\lambda\mathbf{K}_1s}(\mathbf{x})) + i\mathbf{K}_1 \right] \end{aligned} \quad (221)$$

$$= \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} \frac{(-e)\hbar}{im} \left[\frac{im}{\hbar^2} \frac{\partial E_{\lambda\mathbf{K}_1}}{\partial \mathbf{K}_1} - i\mathbf{K}_1 + i\mathbf{K}_1 \right] \quad (222)$$

$$= \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} (-e) \left[\frac{1}{\hbar} \frac{\partial E_{\lambda\mathbf{K}_1}}{\partial \mathbf{K}_1} \right] \quad (223)$$

ここで, $\frac{1}{\hbar} \frac{\partial E_{\lambda\mathbf{K}}}{\partial \mathbf{K}}$ はバンド λ での電子の群速度 v を表す。

$$\mathbf{v}_{\lambda\mathbf{K}} \equiv \frac{1}{\hbar} \frac{\partial E_{\lambda\mathbf{K}}}{\partial \mathbf{K}} \quad (224)$$

これより,

$$\int d^3\mathbf{x} I^{-e}\{\lambda\mathbf{K}_4|\lambda\mathbf{K}_1\}(\mathbf{x}) = \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} (-e) \mathbf{v}_{\lambda\mathbf{K}_1} \quad (225)$$

よって,

$$\int d^3\mathbf{x} I^{-e}\{c\mathbf{K}_4|c\mathbf{K}_1\}(\mathbf{x}) = \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} (-e) \mathbf{v}_{c\mathbf{K}_1} \quad (226)$$

また

$$\int d^3\mathbf{x} I^{+e}\{v\mathbf{K}_1|v\mathbf{K}_4\}(\mathbf{x}) = \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} (+e) \mathbf{v}_{v\mathbf{K}_1} \quad (227)$$

$$(228)$$

(2) $\lambda_4 \neq \lambda_1$ かつ $E_{\lambda_4\mathbf{K}} = E_{\lambda_1\mathbf{K}}$ のとき (縮退したバンド間)

$$\int d^3\mathbf{x} I^{-e}\{\lambda_4\mathbf{K}_4|\lambda_1\mathbf{K}_1\}(\mathbf{x}) = 0 \quad (229)$$

(3) $\lambda_4 \neq \lambda_1$ かつ $E_{\lambda_4 \mathbf{K}_4} \neq E_{\lambda_1 \mathbf{K}_1}$ のとき (縮退していないバンド間)

このとき $\int d^3 \mathbf{x} \mathbf{I}^{-e} \{ \lambda_4 \mathbf{K}_4 | \lambda_1 \mathbf{K}_1 \} (\mathbf{x})$ は, Helman-Feynmann の定理からはとくに変形はできないが, 1 サイト内での Bloch function による電気双極子と関係することがわかる。

$$\begin{aligned} & \int d^3 \mathbf{x} \mathbf{I}^{-e} \{ \lambda_4 \mathbf{K}_4 | \lambda_1 \mathbf{K}_1 \} (\mathbf{x}) \\ &= \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} \frac{(-e)\hbar}{im} \left[\sum_s \int_v d^3 \mathbf{x} u_{\lambda_4 \mathbf{K}_1 s}^* (\mathbf{x}) (\nabla u_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s} (\mathbf{x})) \right] \end{aligned} \quad (230)$$

ここで

$$[\mathbf{x}, \hat{H}(\mathbf{K})] = i\hbar \left[\frac{\hbar}{im} \nabla + \frac{\hbar}{m} \mathbf{K} \right] \delta_{s's} \quad (231)$$

$$= \frac{\hbar^2}{m} [\nabla + i\mathbf{K}] \quad (232)$$

より,

$$\nabla = \frac{m}{\hbar^2} [\mathbf{x}, \hat{H}(\mathbf{K})] - i\mathbf{K} \quad (233)$$

これを用いて,

$$\begin{aligned} & \int d^3 \mathbf{x} \mathbf{I}^{-e} \{ \lambda_4 \mathbf{K}_4 | \lambda_1 \mathbf{K}_1 \} (\mathbf{x}) \\ &= \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} \frac{(-e)\hbar}{im} \left[\sum_s \int_v d^3 \mathbf{x} u_{\lambda_4 \mathbf{K}_1 s}^* (\mathbf{x}) \left(\frac{m}{\hbar^2} [\mathbf{x}, \hat{H}(\mathbf{K})] - i\mathbf{K} \right) u_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s} (\mathbf{x}) \right] \end{aligned} \quad (234)$$

$$= \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} \frac{(-e)}{i\hbar} \left[\sum_s \int_v d^3 \mathbf{x} u_{\lambda_4 \mathbf{K}_1 s}^* (\mathbf{x}) [\mathbf{x}, \hat{H}(\mathbf{K})] u_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s} (\mathbf{x}) \right] \quad (235)$$

$$= \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} \frac{(-e)}{i\hbar} \left[\left(E_{\lambda_1 \mathbf{K}_1} - \frac{\hbar^2 \mathbf{K}_1^2}{2m} \right) - \left(E_{\lambda_4 \mathbf{K}_1} - \frac{\hbar^2 \mathbf{K}_1^2}{2m} \right) \right] \sum_s \int_v d^3 \mathbf{x} u_{\lambda_4 \mathbf{K}_1 s}^* (\mathbf{x}) \mathbf{x} u_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s} (\mathbf{x}) \quad (236)$$

$$= \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} i \frac{E_{\lambda_4 \mathbf{K}_1} - E_{\lambda_1 \mathbf{K}_1}}{\hbar} \sum_s \int_v d^3 \mathbf{x} u_{\lambda_4 \mathbf{K}_1 s}^* (\mathbf{x}) (-e) \mathbf{x} u_{\lambda_1 \mathbf{K}_1 s} (\mathbf{x}) \quad (237)$$

よって,

(i) conduction-conduction band 間の遷移に対して

$$\begin{aligned} & \int d^3 \mathbf{x} I^{-e} \{c_4 \mathbf{K}_4 | c_1 \mathbf{K}_1\}(\mathbf{x}) \\ &= \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} i \frac{E_{c_4 \mathbf{K}_1} - E_{c_1 \mathbf{K}_1}}{\hbar} \sum_s \int_v d^3 \mathbf{x} u_{c_4 \mathbf{K}_1 s}^*(\mathbf{x}) (-e) \mathbf{x} u_{c_1 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x}) \end{aligned} \quad (238)$$

$$\equiv \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} i \frac{E_{c_4 \mathbf{K}_1} - E_{c_1 \mathbf{K}_1}}{\hbar} D_{c_4 c_1 \mathbf{K}_1} \quad (239)$$

(ii) valence-valence band 間の遷移に対して

$$\begin{aligned} & \int d^3 \mathbf{x} I^{+e} \{v_1 \mathbf{K}_1 | v_4 \mathbf{K}_4\}(\mathbf{x}) \\ &= \delta_{\mathbf{K}_1, \mathbf{K}_4} i \frac{E_{v_1 \mathbf{K}_1} - E_{v_4 \mathbf{K}_1}}{\hbar} \sum_s \int_v d^3 \mathbf{x} u_{v_1 \mathbf{K}_1 s}^*(\mathbf{x}) (+e) \mathbf{x} u_{v_4 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x}) \end{aligned} \quad (240)$$

$$\text{or } \delta_{\mathbf{K}_1, \mathbf{K}_4} i \frac{E_{v_4 \mathbf{K}_1} - E_{v_1 \mathbf{K}_1}}{\hbar} \sum_s \int_v d^3 \mathbf{x} u_{v_1 \mathbf{K}_1 s}^*(\mathbf{x}) (-e) \mathbf{x} u_{v_4 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x}) \quad (241)$$

$$\text{or } \delta_{\mathbf{K}_1, \mathbf{K}_4} i \frac{E_{v_4 \mathbf{K}_1} - E_{v_1 \mathbf{K}_1}}{\hbar} \left[\sum_s \int_v d^3 \mathbf{x} u_{v_4 \mathbf{K}_1 s}^*(\mathbf{x}) (-e) \mathbf{x} u_{v_1 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x}) \right]^* \quad (242)$$

$$\equiv \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} i \frac{E_{v_4 \mathbf{K}_1} - E_{v_1 \mathbf{K}_1}}{\hbar} D_{v_4 v_1 \mathbf{K}_1}^* \quad (243)$$

(iii) valence-conduction band 間の遷移に対して

$$\begin{aligned} & \int d^3 \mathbf{x} I^{-e} \{c_4 \mathbf{K}_4 | v_1 \mathbf{K}_1\}(\mathbf{x}) \\ &= \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} i \frac{E_{c_4 \mathbf{K}_1} - E_{v_1 \mathbf{K}_1}}{\hbar} \sum_s \int_v d^3 \mathbf{x} u_{c_4 \mathbf{K}_1 s}^*(\mathbf{x}) (-e) \mathbf{x} u_{v_1 \mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x}) \end{aligned} \quad (244)$$

$$\equiv \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} i \frac{E_{c_4 \mathbf{K}_1} - E_{v_1 \mathbf{K}_1}}{\hbar} D_{c_4 v_1 \mathbf{K}_1} \quad (245)$$

10.1 $\int d^3\mathbf{x}I^{-e}\{\lambda_4\mathbf{R}_4|\lambda_1\mathbf{R}_1\}(\mathbf{x})$ について

以上の準備 1, 2 による $\int d^3\mathbf{x}I^{-e}\{\lambda_4\mathbf{R}_4|\lambda_1\mathbf{R}_1\}(\mathbf{x})$ の結果を表す。

$$\begin{aligned} & I^{-e}\{\lambda_4\mathbf{R}_4|\lambda_1\mathbf{R}_1\}(\mathbf{x}) \\ &= \sum_s \frac{(-e)\hbar}{2im} [w_{\lambda_4 s}^*(\mathbf{x} - \mathbf{R}_4) (\nabla w_{\lambda_1 s}(\mathbf{x} - \mathbf{R}_1)) - (\nabla w_{\lambda_4 s}^*(\mathbf{x} - \mathbf{R}_4)) w_{\lambda_1 s}(\mathbf{x} - \mathbf{R}_1)] \end{aligned} \quad (246)$$

$$= \sum_{\mathbf{K}_4\mathbf{K}_1} \frac{1}{N} e^{i(\mathbf{K}_4\mathbf{R}_4 - \mathbf{K}_1\mathbf{R}_1)} \sum_s \frac{(-e)\hbar}{2im} [b_{\lambda_4\mathbf{K}_4 s}^*(\mathbf{x}) (\nabla b_{\lambda_1\mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x})) - (\nabla b_{\lambda_4\mathbf{K}_4 s}^*(\mathbf{x})) b_{\lambda_1\mathbf{K}_1 s}(\mathbf{x})] \quad (247)$$

$$= \sum_{\mathbf{K}_4\mathbf{K}_1} \frac{1}{N} e^{i(\mathbf{K}_4\mathbf{R}_4 - \mathbf{K}_1\mathbf{R}_1)} I^{-e}\{\lambda_4\mathbf{K}_4|\lambda_1\mathbf{K}_1\}(\mathbf{x}) \quad (248)$$

これらより, 以下の場合に分けて $\int d^3\mathbf{x}I^{-e}\{\lambda_4\mathbf{R}_4|\lambda_1\mathbf{R}_1\}(\mathbf{x})$ の結果を表す。

(1) $\lambda_4 = \lambda_1 (\equiv \lambda)$ のとき ($E_{\lambda_4\mathbf{K}} = E_{\lambda_1\mathbf{K}}$)

以下のように真電流を定義する。

$$(-e) \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \mathbf{v}_{c\mathbf{K}} \equiv \mathbf{J}_c^{-e}(\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1) \quad (249)$$

$$(+e) \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{-i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \mathbf{v}_{v\mathbf{K}} \stackrel{\text{or}}{\equiv} (+e) \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \mathbf{v}_{v-\mathbf{K}} \quad (250)$$

$$\equiv \mathbf{J}_v^{+e}(\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1) \quad (251)$$

これより,

$$\int d^3\mathbf{x}I^{-e}\{c\mathbf{R}_4|c\mathbf{R}_1\}(\mathbf{x}) = \mathbf{J}_c^{-e}(\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1) \quad (252)$$

$$(253)$$

$$\int d^3\mathbf{x}I^{+e}\{v\mathbf{R}_1|v\mathbf{R}_4\}(\mathbf{x}) = \mathbf{J}_v^{+e}(\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1) \quad (254)$$

$$(255)$$

(2) $\lambda_4 \neq \lambda_1$ かつ $E_{\lambda_4\mathbf{K}} = E_{\lambda_1\mathbf{K}}$ のとき (縮退したバンド間)

$$\int d^3\mathbf{x}I^{-e}\{\lambda_4\mathbf{R}_4|\lambda_1\mathbf{R}_1\}(\mathbf{x}) = 0 \quad (256)$$

よって、電磁場によって縮退したバンド間での遷移は生じないことがわかる。

(3) $\lambda_4 \neq \lambda_1$ かつ $E_{\lambda_4 \mathbf{K}} \neq E_{\lambda_1 \mathbf{K}}$ のとき (縮退していないバンド間)

以下のように、分極波による電流を定義する。

$$\sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} i \frac{E_{\lambda_4 \mathbf{K}} - E_{\lambda_1 \mathbf{K}}}{\hbar} D_{\lambda_4 \lambda_1 \mathbf{K}} \equiv \mathbf{J}_{\lambda_4 \lambda_1}^P(\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1) \quad (257)$$

(i) conduction-conduction band 間の遷移に対して

$$\int d^3 \mathbf{x} \mathbf{I}^{-e} \{c_4 \mathbf{R}_4 | c_1 \mathbf{R}_1\}(\mathbf{x}) = \sum_{\mathbf{K}_4 \mathbf{K}_1} \frac{1}{N} e^{i(\mathbf{K}_4 \mathbf{R}_4 - \mathbf{K}_1 \mathbf{R}_1)} \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} i \frac{E_{c_4 \mathbf{K}_1} - E_{c_1 \mathbf{K}_1}}{\hbar} D_{c_4 c_1 \mathbf{K}_1} \quad (258)$$

$$= \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} i \frac{E_{c_4 \mathbf{K}} - E_{c_1 \mathbf{K}}}{\hbar} D_{c_4 c_1 \mathbf{K}} \quad (259)$$

$$\equiv \mathbf{J}_{c_4 c_1}^P(\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1) \quad (260)$$

(ii) valence-valence band 間の遷移に対して

$$\int d^3 \mathbf{x} \mathbf{I}^{+e} \{v_1 \mathbf{R}_1 | v_4 \mathbf{R}_4\}(\mathbf{x}) = \sum_{\mathbf{K}_4 \mathbf{K}_1} \frac{1}{N} e^{i(\mathbf{K}_1 \mathbf{R}_1 - \mathbf{K}_4 \mathbf{R}_4)} \mathbf{I}^{+e} \{v_1 \mathbf{R}_1 | v_4 \mathbf{R}_4\}(\mathbf{x}) \quad (261)$$

$$= \sum_{\mathbf{K}_4 \mathbf{K}_1} \frac{1}{N} e^{i(\mathbf{K}_1 \mathbf{R}_1 - \mathbf{K}_4 \mathbf{R}_4)} \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} i \frac{E_{v_4 \mathbf{K}_1} - E_{v_1 \mathbf{K}_1}}{\hbar} D_{v_4 v_1 \mathbf{K}_1}^* \quad (262)$$

$$= \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_1 - \mathbf{R}_4)} i \frac{E_{v_4 \mathbf{K}} - E_{v_1 \mathbf{K}}}{\hbar} D_{v_4 v_1 \mathbf{K}}^* \quad (263)$$

$$= \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} i \frac{E_{v_4 \mathbf{K}} - E_{v_1 \mathbf{K}}}{\hbar} D_{v_4 v_1 \mathbf{K}}^* \quad (264)$$

$$\equiv \mathbf{J}_{v_4 v_1}^P(\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1) \quad (265)$$

(iii) conduction-valence band 間の遷移に対して

$$\int d^3\mathbf{x} I^{-e}\{c_4\mathbf{R}_4|v_1\mathbf{R}_1\}(\mathbf{x}) = \sum_{\mathbf{K}_4\mathbf{K}_1} \frac{1}{N} e^{i(\mathbf{K}_4\mathbf{R}_4 - \mathbf{K}_1\mathbf{R}_1)} \delta_{\mathbf{K}_4, \mathbf{K}_1} e^{i\frac{E_{c_4\mathbf{K}_1} - E_{v_1\mathbf{K}_1}}{\hbar}} D_{c_4v_1\mathbf{K}_1} \quad (266)$$

$$= \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} e^{i\frac{E_{c_4\mathbf{K}} - E_{v_1\mathbf{K}}}{\hbar}} D_{c_4v_1\mathbf{K}} \quad (267)$$

$$\equiv J_{c_4v_1}^P(\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1) \quad (268)$$

10.2 $\int d^3\mathbf{x} I^{-e}\{\lambda\mathbf{R}_4|\lambda\mathbf{R}_1\}(\mathbf{x})$ について有効質量 m_λ を用いた考察

バンド λ における群速度

$$\mathbf{v}_{\lambda\mathbf{K}} \equiv \frac{1}{\hbar} \frac{\partial E_{\lambda\mathbf{K}}}{\partial \mathbf{K}} \quad (269)$$

を用いて,

$$\int d^3\mathbf{x} I^{-e}\{c\mathbf{R}_4|c\mathbf{R}_1\}(\mathbf{x}) = J_c^{-e}(\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1) \quad (270)$$

$$= (-e) \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \mathbf{v}_{c\mathbf{K}} \quad (271)$$

$$= (-e) \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \frac{1}{\hbar} \frac{\partial E_{c\mathbf{K}}}{\partial \mathbf{K}} \quad (272)$$

$$\int d^3\mathbf{x} I^{+e}\{v\mathbf{R}_1|v\mathbf{R}_4\}(\mathbf{x}) = J_v^{+e}(\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1) \quad (273)$$

$$= (+e) \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{-i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \mathbf{v}_{v\mathbf{K}} \quad (274)$$

$$= (+e) \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{-i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \frac{1}{\hbar} \frac{\partial E_{v\mathbf{K}}}{\partial \mathbf{K}} \quad (275)$$

であるが、このとき以下のように有効質量 m_λ を用いることで、より電流の形式を具体的に示すことができる。

Γ 点のまわりでの球対称な有効質量近似のとき

バンド構造は Γ 点のまわりでの球対称であるとみなし、バンドの分散について有効質量近似を行うと、

$$E_{c\mathbf{K}} = E_c + \frac{\hbar^2 \mathbf{K}^2}{2m_c} \quad (276)$$

$$E_{v\mathbf{K}} = E_v + \frac{\hbar^2 \mathbf{K}^2}{2m_v} \quad (277)$$

$$= E_v - \frac{\hbar^2 \mathbf{K}^2}{2m_h} \quad (278)$$

となる。

このとき群速度は

$$\mathbf{v}_{c\mathbf{K}} = \frac{\hbar \mathbf{K}}{m_c} \quad (279)$$

$$\mathbf{v}_{v\mathbf{K}} = -\frac{\hbar \mathbf{K}}{m_h} \quad (280)$$

と表される。

これより、

$$\int d^3 \mathbf{x} \mathbf{I}^{-e} \{c\mathbf{R}_4 | c\mathbf{R}_1\}(\mathbf{x}) = \frac{(-e)\hbar}{m_c} \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \mathbf{K} \quad (281)$$

$$\int d^3 \mathbf{x} \mathbf{I}^{+e} \{v\mathbf{R}_1 | v\mathbf{R}_4\}(\mathbf{x}) = -\frac{(+e)\hbar}{m_h} \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{-i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \mathbf{K} \quad (282)$$

$$= \frac{(+e)\hbar}{m_h} \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \mathbf{K} \quad (283)$$

となる。

ここで、次の近似を考える。

$$\begin{aligned} & \frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} K_i \\ & \sim \frac{1}{2} \frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{2i\hbar} \left[\left\{ e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 + \hbar \mathbf{e}_i - \mathbf{R}_1)} - e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \right\} + \left\{ e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} - e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \hbar \mathbf{e}_i - \mathbf{R}_1)} \right\} \right] \end{aligned} \quad (284)$$

$$- \frac{1}{2} \frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{2i\hbar} \left[\left\{ e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1 - \hbar \mathbf{e}_i)} - e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \right\} + \left\{ e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} - e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1 + \hbar \mathbf{e}_i)} \right\} \right] \quad (285)$$

$$\begin{aligned} & = \frac{1}{2i} \left[\frac{1}{2\hbar} \left[\{ \delta_{\mathbf{R}_4 + \hbar \mathbf{e}_i, \mathbf{R}_1} - \delta_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \} + \{ \delta_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} - \delta_{\mathbf{R}_4 - \hbar \mathbf{e}_i, \mathbf{R}_1} \} \right] \right. \\ & \quad \left. - \frac{1}{2\hbar} \left[\{ \delta_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1 + \hbar \mathbf{e}_i} - \delta_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \} + \{ \delta_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} - \delta_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1 - \hbar \mathbf{e}_i} \} \right] \right] \end{aligned} \quad (286)$$

この近似がもっとも良くなるのは、 h が小さいほどよいことから、

$$h = a_i \quad (i \text{ 方向のサイト間距離}) \quad (287)$$

のときである。つまり最隣接サイト間のホッピングによる電流を表すことになる。

また $h = 0$ とすると計算が破綻することから、 $\mathbf{R}_4 = \mathbf{R}_1$ に対しては $\int d^3 \mathbf{x} \mathbf{I}^{-e} \{ \lambda \mathbf{R}_4 | \lambda \mathbf{R}_1 \} (\mathbf{x})$ に群速度を用いた式変形を適用してはいけなことがわかる。

$\mathbf{R}_4 = \mathbf{R}_1 (\equiv \mathbf{R})$ における $\int d^3 \mathbf{x} \mathbf{I}^{\pm e} \{ \lambda \mathbf{R}_4 | \lambda \mathbf{R}_1 \} (\mathbf{x})$ についての考察

$\mathbf{R}_4 = \mathbf{R}_1 (\equiv \mathbf{R})$ のとき、

$$\begin{aligned} & - \frac{1}{c} \int d^3 \mathbf{x} \mathbf{I}^{\pm e \hbar} \{ \lambda \mathbf{R} | \lambda \mathbf{R} \} (\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \\ & = - \frac{1}{c} \sum_s \int d^3 \mathbf{x} \left[\frac{(\pm e)}{im} w_{\lambda \mathbf{R}}^*(s, \mathbf{x}) \nabla w_{\lambda \mathbf{R}}(s, \mathbf{x}) \right] \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \end{aligned} \quad (288)$$

ここで静磁場 $\mathbf{B} = (0, 0, B)$ との相互作用を考える。このときベクトルポテンシャル $\mathbf{A}(\mathbf{x})$ は

$$\mathbf{A}(\mathbf{x}) = \left(-\frac{1}{2} B y, \frac{1}{2} B x, 0 \right) \quad (289)$$

と書くことができる。このとき

$$\begin{aligned}
& -\frac{1}{c} \int d^3 \mathbf{x} I^{\pm e} \{ \lambda \mathbf{R} | \lambda \mathbf{R} \} (\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \\
& = -\sum_s \int d^3 \mathbf{x} \left[w_{\lambda \mathbf{R}}^*(s, \mathbf{x}) \frac{(\pm e)}{2mc} \left(\mathbf{x} \times \frac{\hbar}{i} \nabla \right) w_{\lambda \mathbf{R}}(s, \mathbf{x}) \right] \cdot \mathbf{B}(\mathbf{x}) \\
& = -\sum_s \int d^3 \mathbf{x} \left[w_{\lambda \mathbf{R}}^*(s, \mathbf{x}) \frac{(\pm e)}{2mc} \left(\mathbf{x} \times \frac{\hbar}{i} \nabla \right) w_{\lambda \mathbf{R}}(s, \mathbf{x}) \right] \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{x}) \\
& = -\sum_s \int d^3 \mathbf{x} \left[w_{\lambda \mathbf{R}}^*(s, \mathbf{x}) \frac{(\pm e)}{2mc} \left(\mathbf{x} \times \frac{\hbar}{i} \nabla \right) w_{\lambda \mathbf{R}}(s, \mathbf{x}) \right] \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \\
& = -\sum_s \int d^3 \mathbf{x} \left[w_{\lambda \mathbf{R}}^*(s, \mathbf{x}) \frac{(\pm e)}{2mc} \left((\mathbf{x} - \mathbf{R}) \times \frac{\hbar}{i} \nabla \right) w_{\lambda \mathbf{R}}(s, \mathbf{x}) \right] \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R})
\end{aligned} \tag{290}$$

これは磁気モーメントと静磁場の相互作用を表すもので、Zeemann 効果を生じさせる項である。この変形を一般のベクトルポテンシャルにも適用できるとすると、

$$\begin{aligned}
& -\frac{1}{c} \int d^3 \mathbf{x} I^{-e} \{ c \mathbf{R} | c \mathbf{R} \} (\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \\
& \sim -\sum_s \int d^3 \mathbf{x} \left[w_{\lambda \mathbf{R}}^*(s, \mathbf{x}) \frac{(\pm e)}{2mc} \left((\mathbf{x} - \mathbf{R}) \times \frac{\hbar}{i} \nabla \right) w_{\lambda \mathbf{R}}(s, \mathbf{x}) \right] \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \\
& \equiv -\mathbf{m}_L^{\pm e} \{ \lambda \mathbf{R} | \lambda \mathbf{R} \} \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R})
\end{aligned} \tag{291}$$

ここで $\mathbf{m}_L^{\pm e} \{ \lambda \mathbf{R} | \lambda \mathbf{R} \}$

$$\mathbf{m}_L^{\pm e} \{ \lambda \mathbf{R} | \lambda \mathbf{R} \} = \langle \lambda \mathbf{R} | \frac{(\pm e)}{2mc} (\hat{\mathbf{x}} \times \hat{\mathbf{P}}) | \lambda \mathbf{R} \rangle \tag{292}$$

と表される。

10.3 \hat{H}_{1M-P} の意味

以上の考察から、次のように \hat{H}_{1M-P} が表されることがわかる。

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{1M-P} = & -\frac{1}{c} \sum_c \sum_{\mathbf{R}_4 \neq \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \mathbf{J}_c^{-e}(\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1) \cdot \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \\
& -\frac{1}{c} \sum_v \sum_{\mathbf{R}_4 \neq \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1} \mathbf{J}_v^{+e}(\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1) \cdot \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \\
& - \sum_c \sum_{\mathbf{R}} \hat{c}_{c\mathbf{R}}^\dagger \hat{c}_{c\mathbf{R}} \mathbf{m}_L^{-e} \{c\mathbf{R}|c\mathbf{R}\} \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \\
& - \sum_v \sum_{\mathbf{R}} \hat{d}_{v\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{v\mathbf{R}} \mathbf{m}_L^{+e} \{v\mathbf{R}|v\mathbf{R}\} \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \\
& -\frac{1}{c} \sum_{c_4 v_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \mathbf{J}_{c_4 v_1}^P(\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1) \cdot \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \\
& \qquad \qquad \qquad + (\text{h.c.}) \\
& -\frac{1}{c} \sum_{c_4 \neq c_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \mathbf{J}_{c_4 c_1}^P(\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1) \cdot \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \\
& -\frac{1}{c} \sum_{v_4 \neq v_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \mathbf{J}_{v_4 v_1}^P(\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1) \cdot \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right)
\end{aligned} \tag{293}$$

ここで、第1項と第2項は電子とホールにおける真電流と電磁場との相互作用を表し、第3項と第4項は各バンドの内部軌道角運動量による磁気モーメントと磁場との相互作用を表し、第5項から第7項はバンド間の分極波が作る電流と電磁場との相互作用を表している。

10.4 \hat{H}_{1M-P} についての $\mathbf{k} \cdot \mathbf{p}$ 摂動に対する大きさ

\hat{H}_{1M-P} は以下のようにもまとめることができる。

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{1M-P} = & -\frac{1}{c} \sum_c \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \frac{(-e)\hbar}{m_c} \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \mathbf{K} \cdot \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \\
& - \frac{1}{c} \sum_v \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v \mathbf{R}_1} \frac{(+e)\hbar}{m_h} \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \mathbf{K} \cdot \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \\
& - \frac{1}{c} \sum_{c_4 v_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle c_4 \mathbf{K} | \frac{(-e)}{m} \hat{\mathbf{p}} | v_1 \mathbf{K} \rangle \cdot \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \\
& \quad + (\text{h.c.}) \\
& - \frac{1}{c} \sum_{c_4 c_1 (\epsilon_{c_4} \neq \epsilon_{c_1})} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle c_4 \mathbf{K} | \frac{(-e)}{m} \hat{\mathbf{p}} | c_1 \mathbf{K} \rangle \cdot \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \\
& - \frac{1}{c} \sum_{v_4 v_1 (\epsilon_{v_4} \neq \epsilon_{v_1})} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4} \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle v_4 \mathbf{K} | \frac{(+e)}{m} \hat{\mathbf{p}} | v_1 \mathbf{K} \rangle \cdot \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right)
\end{aligned} \tag{294}$$

ここで

$$\frac{ea_B}{\hbar c} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \frac{1}{a_B} \equiv \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \tag{295}$$

の書き換えを行うと,

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{1M-P} = & \sum_c \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \frac{\hbar^2}{m_c} \mathbf{K} \cdot \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \\
& - \sum_v \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \frac{\hbar^2}{m_h} \mathbf{K} \cdot \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \\
& + \sum_{c_4 v_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle c_4 \mathbf{K} | \frac{\hbar}{m} \hat{\mathbf{p}} | v_1 \mathbf{K} \rangle \cdot \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \\
& \quad + (\text{h.c.}) \\
& + \sum_{c_4 c_1 (\epsilon_{c_4} \neq \epsilon_{c_1})} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle c_4 \mathbf{K} | \frac{\hbar}{m} \hat{\mathbf{p}} | c_1 \mathbf{K} \rangle \cdot \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \\
& - \sum_{v_4 v_1 (\epsilon_{v_4} \neq \epsilon_{v_1})} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4} \sum_{\mathbf{K}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle v_4 \mathbf{K} | \frac{\hbar}{m} \hat{\mathbf{p}} | v_1 \mathbf{K} \rangle \cdot \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1}
\end{aligned} \tag{296}$$

11 ハミルトニアンの中の $\mathbf{k} \cdot \mathbf{p}$ 摂動による考察

この章では、今まで計算してきたハミルトニアンを $\mathbf{k} \cdot \mathbf{p}$ 摂動の視点から考察する。はじ

めに、今まで計算してきたクーロンゲージを用いた電磁場と相互作用する物質系のハミルトニアンをまとめる。

11.1 ハミルトニアン \hat{H}

ハミルトニアン \hat{H} は以下の各項に分けて記述することができる

$$\begin{aligned}\hat{H} &= E_M + \hat{H}_M + \hat{H}_{M-P} + \hat{H}_P \\ &= E_M + \hat{H}_1 + \hat{V} + \hat{H}_{1M-P} + \hat{H}_{2M-P} + \hat{Z}_{M-P} + \hat{H}_P\end{aligned}\quad (297)$$

ここで \hat{H}_1 については

$$\hat{H}_1 = \sum_c \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \left(\frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \left(\epsilon_c(\mathbf{K}) + \frac{\hbar^2 \mathbf{K}^2}{2m} \right) \right) \hat{c}_{c\mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c\mathbf{R}_1} \quad (298)$$

$$+ \sum_v \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \left(-\frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \left(\epsilon_v(-\mathbf{K}) + \frac{\hbar^2 \mathbf{K}^2}{2m} \right) \right) \hat{d}_{v\mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{v\mathbf{R}_4} \quad (299)$$

また \hat{V} については

$$\hat{V} = \frac{1}{2} \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{c_3 \mathbf{R}_3} \sum_{c_2 \mathbf{R}_2} \sum_{c_1 \mathbf{R}_1} V \{c_4 \mathbf{R}_4, c_3 \mathbf{R}_3 | c_2 \mathbf{R}_2, c_1 \mathbf{R}_1\} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_3 \mathbf{R}_3}^\dagger \hat{c}_{c_2 \mathbf{R}_2} \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \quad (300)$$

$$+ \frac{1}{2} \sum_{v_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_3 \mathbf{R}_3} \sum_{v_2 \mathbf{R}_2} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} V \{v_1 \mathbf{R}_1, v_2 \mathbf{R}_2 | v_3 \mathbf{R}_3, v_4 \mathbf{R}_4\} \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_3 \mathbf{R}_3}^\dagger \hat{d}_{v_2 \mathbf{R}_2} \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1} \quad (301)$$

$$\begin{aligned}- \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_3 \mathbf{R}_3} \sum_{v_2 \mathbf{R}_2} \sum_{c_1 \mathbf{R}_1} & \left[V \{c_4 \mathbf{R}_4, v_2 \mathbf{R}_2 | v_3 \mathbf{R}_3, c_1 \mathbf{R}_1\} \right. \\ & \left. - V \{c_4 \mathbf{R}_4, v_2 \mathbf{R}_2 | c_1 \mathbf{R}_1, v_3 \mathbf{R}_3\} \right] \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_3 \mathbf{R}_3}^\dagger \hat{d}_{v_2 \mathbf{R}_2} \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1}\end{aligned}\quad (302)$$

と表される。

また

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{1M-P} = & \sum_{\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \frac{\partial E_{\mathbf{c}}(\mathbf{K})}{\partial \mathbf{K}} \cdot \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \right) \hat{c}_{\mathbf{c} \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c} \mathbf{R}_1} \\
& + \sum_{\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(-\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \frac{\partial E_{\mathbf{v}}(\mathbf{K})}{\partial \mathbf{K}} \cdot \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \right) \hat{d}_{\mathbf{v} \mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v} \mathbf{R}_4} \\
& + \sum_{\mathbf{c}_4 \mathbf{v}_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle \mathbf{c}_4 \mathbf{K} | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{p}} | \mathbf{v}_1 \mathbf{K} \rangle \right) \hat{c}_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \\
& \quad \quad \quad + (\text{h.c.}) \\
& + \sum_{\mathbf{c}_4 \neq \mathbf{c}_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle \mathbf{c}_4 \mathbf{K} | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{p}} | \mathbf{c}_1 \mathbf{K} \rangle \right) \hat{c}_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1} \\
& - \sum_{\mathbf{v}_4 \neq \mathbf{v}_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle \mathbf{v}_4 \mathbf{K} | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{p}} | \mathbf{v}_1 \mathbf{K} \rangle \right) \hat{d}_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_4 \mathbf{R}_4}
\end{aligned} \tag{303}$$

ただし、上式の最後の2項における \mathbf{c}_4 と \mathbf{c}_1 についてと \mathbf{v}_4 と \mathbf{v}_1 についてのそれぞれの和は、エネルギーの縮退していない状態での和をとるものとする。

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{2M-P} = & \sum_{\mathbf{c} \mathbf{R}} \frac{\hbar^2}{2m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}, \mathbf{R}}^2 \hat{c}_{\mathbf{c} \mathbf{R}}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c} \mathbf{R}} \\
& - \sum_{\mathbf{v} \mathbf{R}} \frac{\hbar^2}{2m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}, \mathbf{R}}^2 \hat{d}_{\mathbf{v} \mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v} \mathbf{R}}
\end{aligned} \tag{304}$$

$$\begin{aligned}
\hat{Z}_{M-P} = & - \sum_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4 \mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1} \left(\frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle \mathbf{c}_4 \mathbf{K} | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \mathbf{v}_1 \mathbf{K} \rangle \right) \cdot \text{rot} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \hat{c}_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \\
& \quad \quad \quad + (\text{h.c.}) \\
& - \frac{1}{c} \sum_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4 \mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1} \left(\frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle \mathbf{c}_4 \mathbf{K} | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \mathbf{c}_1 \mathbf{K} \rangle \right) \cdot \text{rot} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \hat{c}_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1} \\
& - \frac{1}{c} \sum_{\mathbf{v}_4 \mathbf{R}_4 \mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1} \left(\frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle \mathbf{v}_4 \mathbf{K} | \frac{(+e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \mathbf{v}_1 \mathbf{K} \rangle \right) \cdot \text{rot} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}_4 + \mathbf{R}_1}{2} \right) \hat{d}_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_4 \mathbf{R}_4}
\end{aligned} \tag{305}$$

電磁場のハミルトニアン \hat{H}_P は

$$\hat{H}_P + \int d\mathbf{x}^3 \frac{1}{8\pi} \left[(-4\pi c \mathbf{\Pi}^T) \cdot (-4\pi c \mathbf{\Pi}^T) + \text{rot} \mathbf{A} \cdot \text{rot} \mathbf{A} \right] \quad (306)$$

$$- \frac{1}{c} \sum_{\mathbf{vR}} \int d^3 \mathbf{x} I^{-e} \{ \mathbf{vR} | \mathbf{vR} \} (\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \quad (307)$$

$$+ \sum_{\mathbf{vR}} \int d^3 \mathbf{x} R \{ \mathbf{vR} | \mathbf{vR} \} (\mathbf{x}) \mathbf{A}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \quad (308)$$

$$- \sum_{\mathbf{vR}} \int d^3 \mathbf{x} M_S^{-e} \{ \mathbf{vR} | \mathbf{vR} \} (\mathbf{x}) \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{x}) \quad (309)$$

となっている。

11.2 $\mathbf{k} \cdot \mathbf{p}$ 摂動と摂動の大きさ

$|\lambda \mathbf{K} \rangle$ は次の固有値方程式

$$\left(\hat{h} + \frac{\hbar}{m} \mathbf{K} \cdot \hat{\mathbf{p}} \right) |\lambda \mathbf{K} \rangle = \epsilon_\lambda(\mathbf{K}) |\lambda \mathbf{K} \rangle \quad (310)$$

を満たす。ここで,

$$\hat{h} = \frac{\mathbf{p}^2}{2m} + U_{s's}^{\text{eff}}(\mathbf{x}) \quad (311)$$

$$\epsilon_\lambda(\mathbf{k}) = E_\lambda(\mathbf{k}) - \frac{\hbar^2 \mathbf{k}^2}{2m} \quad (312)$$

であった。

ここで \hat{h} を無摂動のハミルトニアン, $\frac{\hbar}{m} \mathbf{K} \cdot \hat{\mathbf{p}}$ を摂動項として摂動展開するのが $\mathbf{k} \cdot \mathbf{p}$ 摂動である。

摂動展開にあたり, 摂動項の大きさを見積もる。

$$\mathbf{k} \sim \frac{1}{a_B} \quad (313)$$

$$\mathbf{a} \sim \frac{1}{a_B} \left(\frac{ea_B}{\hbar c} A \right) \quad (A \text{ は横波ベクトルポテンシャルの大きさ}) \quad (314)$$

$$\mathbf{p} \sim \frac{\hbar}{a} \quad (a \text{ は Lattice Constant}) \quad (315)$$

$$\epsilon_\lambda \sim \frac{\hbar^2}{ma^2} \quad (316)$$

より,

$$\frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \sim \frac{\hbar^2}{ma^2} \left(\frac{a}{a_B} \right) \quad (317)$$

$$\frac{1}{\epsilon - \hat{h}} \sim \frac{ma^2}{\hbar^2} \quad (318)$$

$$\frac{1}{\epsilon - \hat{h}} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \sim \left(\frac{a}{a_B} \right) \quad (319)$$

よって、 $\mathbf{k} \cdot \mathbf{p}$ 摂動のエネルギーは

$$(0 \text{ 次のエネルギー}) \epsilon_\lambda \sim \frac{\hbar^2}{ma^2} \quad (320)$$

$$(1 \text{ 次のエネルギー}) \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \sim \frac{\hbar^2}{ma^2} \left(\frac{a}{a_B} \right) \quad (321)$$

$$(2 \text{ 次のエネルギー}) \frac{1}{\epsilon_\lambda - \hat{h}} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{1}{\epsilon_\lambda - \hat{h}} \sim \frac{\hbar^2}{ma^2} \left(\frac{a}{a_B} \right)^2 \sim \frac{\hbar^2}{ma_B^2} \quad (322)$$

$$(\text{運動エネルギー}) \frac{\hbar^2 \mathbf{k}^2}{2m} \sim \frac{\hbar^2}{ma^2} \left(\frac{a}{a_B} \right)^2 \sim \frac{\hbar^2}{ma_B^2} \quad (323)$$

ここで Lattice constant a と励起子ボーア半径 a_B の比は

$$\frac{a}{a_B} \sim 10^{-3} \quad (324)$$

であるので、この摂動展開は十分に正当である。

11.3 $\mathbf{k} \cdot \mathbf{p}$ 摂動

ここでは2次の $\mathbf{k} \cdot \mathbf{p}$ 摂動により、 $|\lambda \mathbf{K}\rangle$ と $E_\lambda(\mathbf{k})$ の具体的な形と、計算における諸性質を説明する。

はじめに、無摂動の状態とエネルギー固有値を以下のようにおく。

$$|\lambda \mathbf{k} = 0\rangle \equiv |\lambda\rangle \quad (325)$$

$$\epsilon_\lambda(\mathbf{k} = 0) \equiv \epsilon_\lambda \quad (326)$$

このとき、摂動項 $\frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p}$ の2次まで考慮した $|\lambda \mathbf{K}\rangle$ と $\epsilon_\lambda(\mathbf{k})$ は

$$|\lambda \mathbf{k}\rangle = C_{\lambda \mathbf{k}} |\lambda\rangle + \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_\lambda - \hat{h}} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} |\lambda\rangle + \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_\lambda - \hat{h}} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_\lambda - \hat{h}} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} |\lambda\rangle \quad (327)$$

$$\epsilon_\lambda(\mathbf{k}) = \epsilon_\lambda + \langle \lambda | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_\lambda - \hat{h}} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle \quad (328)$$

または,

$$E_\lambda(\mathbf{k}) = \epsilon_\lambda + \frac{\hbar^2 \mathbf{k}^2}{2m} + \langle \lambda | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_\lambda - \hat{h}} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle \quad (329)$$

である。

ただし, $|\lambda\rangle$ のパリティを考慮して, 1 次の摂動のエネルギーは

$$\langle \lambda' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle = 0 \quad (\epsilon_{\lambda'} = \epsilon_\lambda \text{ のとき}) \quad (330)$$

を仮定した。

また, 縮退した $|\lambda\rangle$ の部分空間に対して,

$$\langle \lambda' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_\lambda - \hat{h}} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle = \delta_{\lambda'\lambda} \langle \lambda | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_\lambda - \hat{h}} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle \quad (\epsilon_{\lambda'} = \epsilon_\lambda \text{ のとき}) \quad (331)$$

のように, 2 次の摂動エネルギーが対角化されるように $|\lambda\rangle$ を選ぶ。

ここで,

$$C_{\lambda\mathbf{k}} = 1 - \frac{1}{2} D(\lambda\mathbf{k}|\lambda\mathbf{k}) \quad (332)$$

であり, $D(\lambda'\mathbf{k}'|\lambda\mathbf{k})$ は次のように定義する。

$$D(\lambda'\mathbf{k}'|\lambda\mathbf{k}) = \langle \lambda' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k}' \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda')}}{\epsilon_{\lambda'} - \hat{h}} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_\lambda - \hat{h}} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle \quad (333)$$

また, $D(\lambda)$ は同じエネルギー ϵ_λ をもつバンドインデックスの集合をあらわし, $\bar{\phi}_{D(\lambda)}$ は次のように定義される。

$$\begin{aligned} \bar{\phi}_{D(\lambda)} &\equiv \sum_{\lambda' \notin D(\lambda)} |\lambda'\rangle \langle \lambda'| \\ &\cong \hat{1} - \sum_{\lambda' \in D(\lambda)} |\lambda'\rangle \langle \lambda'| \end{aligned}$$

$|\lambda\mathbf{k}\rangle$ が $\hat{h} + \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p}$ の固有状態となることの証明

以下のように, $|\lambda\mathbf{k}\rangle$ は 2 次の摂動の範囲で $\hat{h} + \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p}$ の固有状態になっていることを証明することができる。

$D(\lambda'\mathbf{k}|\lambda\mathbf{k})$ の性質

以下の議論において、 $D(\lambda'\mathbf{k}|\lambda\mathbf{k})$ 性質を理解しておくことは重要であるため、幾つかの性質を記述する。

はじめに、準備として2次の摂動まで考慮した $\langle \lambda'\mathbf{k}|\lambda\mathbf{k} \rangle$ の式を与える。

$$\begin{aligned}
 \langle \lambda'\mathbf{k}|\lambda\mathbf{k} \rangle = & \delta_{\epsilon_{\lambda'}\epsilon_{\lambda}} \left[\delta_{\lambda'\lambda} + (1 - \delta_{\lambda'\lambda}) D(\lambda'\mathbf{k}|\lambda\mathbf{k}) \right] \\
 & + (1 - \delta_{\epsilon_{\lambda'}\epsilon_{\lambda}}) \left[D(\lambda'\mathbf{k}|\lambda\mathbf{k}) \right. \\
 & + \langle \lambda' | \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_{\lambda} - \hat{h}} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_{\lambda} - \hat{h}} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle \\
 & \left. + \langle \lambda' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda')}}{\epsilon_{\lambda'} - \hat{h}} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda')}}{\epsilon_{\lambda'} - \hat{h}} | \lambda \rangle \right]
 \end{aligned} \tag{335}$$

(i) $\epsilon_{\lambda'} \neq \epsilon_{\lambda}$ のとき

$$\langle \lambda'\mathbf{k} | \left(\hat{h} + \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \right) | \lambda\mathbf{k} \rangle = \epsilon_{\lambda}(\mathbf{k}) \langle \lambda'\mathbf{k} | \lambda\mathbf{k} \rangle \tag{336}$$

$$\langle \lambda'\mathbf{k} | \left(\hat{h} + \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \right) | \lambda\mathbf{k} \rangle = \epsilon_{\lambda'}(\mathbf{k}) \langle \lambda'\mathbf{k} | \lambda\mathbf{k} \rangle \tag{337}$$

これらの両辺引き算をすると

$$(\epsilon_{\lambda'}(\mathbf{k}) - \epsilon_{\lambda}(\mathbf{k})) \langle \lambda'\mathbf{k} | \lambda\mathbf{k} \rangle = 0 \tag{338}$$

より,

$$\langle \lambda'\mathbf{k} | \lambda\mathbf{k} \rangle = 0 \tag{339}$$

このことは、以下の計算を用いて、摂動展開した $|\lambda' \rangle$ と $|\lambda \rangle$ で直接 $\langle \lambda' \mathbf{k} | \lambda \mathbf{k} \rangle$ を計算してもわかる。

$$\begin{aligned}
& D(\lambda' \mathbf{k} | \lambda \mathbf{k}) \\
& + \langle \lambda' | \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_\lambda - \hat{h} m} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_\lambda - \hat{h} m} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle \\
& + \langle \lambda' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda')}}{\epsilon_{\lambda'} - \hat{h} m} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda')}}{\epsilon_{\lambda'} - \hat{h} m} | \lambda \rangle \\
& = \langle \lambda' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda')}}{\epsilon_{\lambda'} - \hat{h} m} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_\lambda - \hat{h} m} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle \\
& + \langle \lambda' | \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_\lambda - \hat{h} m} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_\lambda - \hat{h} m} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle \\
& + \langle \lambda' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda')}}{\epsilon_{\lambda'} - \hat{h} m} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda')}}{\epsilon_{\lambda'} - \hat{h} m} | \lambda \rangle \\
& = \sum_{\lambda'' \notin D(\lambda') D(\lambda)} \frac{1}{\epsilon_{\lambda'} - \epsilon_{\lambda''}} \frac{1}{\epsilon_\lambda - \epsilon_{\lambda''}} \langle \lambda' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda'' \rangle \langle \lambda'' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle \\
& + \sum_{\lambda'' \notin D(\lambda') D(\lambda)} \frac{1}{\epsilon_\lambda - \epsilon_{\lambda'}} \frac{1}{\epsilon_\lambda - \epsilon_{\lambda''}} \langle \lambda' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda'' \rangle \langle \lambda'' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle \\
& + \sum_{\lambda'' \notin D(\lambda') D(\lambda)} \frac{1}{\epsilon_{\lambda'} - \epsilon_{\lambda''}} \frac{1}{\epsilon_{\lambda'} - \epsilon_\lambda} \langle \lambda' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda'' \rangle \langle \lambda'' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle \\
& + \sum_{\lambda'' \notin D(\lambda) \lambda'' \in D(\lambda')} \frac{1}{\epsilon_\lambda - \epsilon_{\lambda'}} \frac{1}{\epsilon_\lambda - \epsilon_{\lambda''}} \langle \lambda' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda'' \rangle \langle \lambda'' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle \\
& + \sum_{\lambda'' \notin D(\lambda) \lambda'' \in D(\lambda)} \frac{1}{\epsilon_{\lambda'} - \epsilon_{\lambda''}} \frac{1}{\epsilon_{\lambda'} - \epsilon_\lambda} \langle \lambda' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda'' \rangle \langle \lambda'' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle \\
& = \sum_{\lambda'' \notin D(\lambda') D(\lambda)} \left[\frac{1}{\epsilon_{\lambda'} - \epsilon_{\lambda''}} \frac{1}{\epsilon_\lambda - \epsilon_{\lambda''}} + \frac{1}{\epsilon_\lambda - \epsilon_{\lambda'}} \frac{1}{\epsilon_\lambda - \epsilon_{\lambda''}} + \frac{1}{\epsilon_{\lambda'} - \epsilon_{\lambda''}} \frac{1}{\epsilon_{\lambda'} - \epsilon_\lambda} \right] \\
& \quad \times \langle \lambda' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda'' \rangle \langle \lambda'' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle \\
& = \sum_{\lambda'' \notin D(\lambda') D(\lambda)} \left[\frac{(\epsilon_{\lambda'} - \epsilon_\lambda) - (\epsilon_{\lambda'} - \epsilon_{\lambda''}) + (\epsilon_\lambda - \epsilon_{\lambda''})}{(\epsilon_{\lambda'} - \epsilon_{\lambda''})(\epsilon_\lambda - \epsilon_{\lambda''})(\epsilon_{\lambda'} - \epsilon_\lambda)} \right] \langle \lambda' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda'' \rangle \langle \lambda'' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle \\
& = 0
\end{aligned} \tag{340}$$

ただし、

$$\langle \lambda'' | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle = 0 \quad (\epsilon_{\lambda''} = \epsilon_\lambda \text{ のとき}) \tag{341}$$

を用いた。

よってこのとき, $D(\lambda'\mathbf{k}|\lambda\mathbf{k})$ については

$$D(\lambda'\mathbf{k}|\lambda\mathbf{k}) \neq 0 \quad (342)$$

ということしかわからない。

(ii) $\epsilon_{\lambda'} = \epsilon_{\lambda}$ かつ $\epsilon_{\lambda'}(\mathbf{k}) \neq \epsilon_{\lambda}(\mathbf{k})$ のとき

(i) と同じ議論により,

$$\langle \lambda'\mathbf{k}|\lambda\mathbf{k} \rangle = 0 \quad (343)$$

また, 今の条件において

$$\langle \lambda'\mathbf{k}|\lambda\mathbf{k} \rangle = D(\lambda'\mathbf{k}|\lambda\mathbf{k}) \quad (344)$$

となるので,

$$D(\lambda'\mathbf{k}|\lambda\mathbf{k}) = 0 \quad (345)$$

(iii) $\epsilon_{\lambda'} = \epsilon_{\lambda}$ かつ $\epsilon_{\lambda'}(\mathbf{k}) = \epsilon_{\lambda}(\mathbf{k})$ かつ $\lambda' \neq \lambda$ のとき

このとき次の2つの状態

$$|\lambda'\mathbf{k}\rangle = C_{\lambda'\mathbf{k}}|\lambda'\rangle + \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_{\lambda} - \hat{h}m} \frac{\hat{h}}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} |\lambda'\rangle + \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_{\lambda} - \hat{h}m} \frac{\hat{h}}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_{\lambda} - \hat{h}m} \frac{\hat{h}}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} |\lambda'\rangle \quad (346)$$

$$|\lambda\mathbf{k}\rangle = C_{\lambda\mathbf{k}}|\lambda\rangle + \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_{\lambda} - \hat{h}m} \frac{\hat{h}}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} |\lambda\rangle + \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_{\lambda} - \hat{h}m} \frac{\hat{h}}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_{\lambda} - \hat{h}m} \frac{\hat{h}}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} |\lambda\rangle \quad (347)$$

は縮退したバンドを表している。これらについては適切な線形結合により必ず互いに直交した状態をつくれるので,

$$\langle \lambda'\mathbf{k}|\lambda\mathbf{k} \rangle = D(\lambda'\mathbf{k}|\lambda\mathbf{k}) = 0 \quad (348)$$

11.4 有効質量 m_λ の導入

2 次の摂動エネルギーにおいて,

$$\langle \lambda | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_\lambda - \hat{h}} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle \equiv \frac{\hbar^2}{2} \left[\left(\frac{1}{m_\lambda} \right)_{ij} - \frac{1}{m} \delta_{ij} \right] k_i k_j \quad (349)$$

とすると,

$$E_\lambda(\mathbf{k}) = \epsilon_\lambda + \frac{\hbar^2}{2} \left(\frac{1}{m_\lambda} \right)_{ij} k_i k_j \quad (350)$$

となる。

さらに簡単のため, 以降

$$\left(\frac{1}{m_\lambda} \right)_{ij} = \frac{1}{m_\lambda} \delta_{ij} \quad (351)$$

とし,

$$\langle \lambda | \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\lambda)}}{\epsilon_\lambda - \hat{h}} \frac{\hbar}{m} \mathbf{k} \cdot \mathbf{p} | \lambda \rangle \equiv \frac{\hbar^2 \mathbf{k}^2}{2} \left(\frac{1}{m_\lambda} - \frac{1}{m} \right) \quad (352)$$

また

$$E_\lambda(\mathbf{k}) = \epsilon_\lambda + \frac{\hbar^2 \mathbf{k}^2}{2m_\lambda} \quad (353)$$

とする。

また,

$$\frac{\partial E_\lambda(\mathbf{k})}{\partial \mathbf{k}} = \frac{\hbar^2 \mathbf{k}}{m_\lambda} \quad (354)$$

となる。

12 2次の $\mathbf{k} \cdot \mathbf{p}$ 摂動によるハミルトニアン

12.1 ハミルトニアン \hat{H}

$\mathbf{k} \cdot \mathbf{p}$ 摂動を2次まで考慮した場合、ハミルトニアン \hat{H} は以下のように書き換えることができる。

$$\begin{aligned}\hat{H} &= E_M + \hat{H}_M + \hat{H}_{M-P} + \hat{H}_P \\ &= E_M + \hat{H}_1 + \hat{V} + \hat{H}_{1M-P} + \hat{H}_{2M-P} + \hat{Z}_{M-P} + \hat{H}_P\end{aligned}\quad (355)$$

ここで \hat{H}_1 については

$$\hat{H}_1 = \sum_{\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \left(\frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \left(\epsilon_{\mathbf{c}} + \frac{\hbar^2 \mathbf{K}^2}{2m_{\mathbf{c}}} \right) \right) \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}_1} \quad (356)$$

$$+ \sum_{\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \left(\frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \left(-\epsilon_{\mathbf{v}} + \frac{\hbar^2 \mathbf{K}^2}{2m_{\mathbf{h}}} \right) \right) \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}_4} \quad (357)$$

また \hat{V} については

$$\hat{V} = \frac{1}{2} \sum_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4} \sum_{\mathbf{c}_3 \mathbf{R}_3} \sum_{\mathbf{c}_2 \mathbf{R}_2} \sum_{\mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1} V \{ \mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4, \mathbf{c}_3 \mathbf{R}_3 | \mathbf{c}_2 \mathbf{R}_2, \mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1 \} \hat{c}_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}_3 \mathbf{R}_3}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}_2 \mathbf{R}_2} \hat{c}_{\mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1} \quad (358)$$

$$+ \frac{1}{2} \sum_{\mathbf{v}_4 \mathbf{R}_4} \sum_{\mathbf{v}_3 \mathbf{R}_3} \sum_{\mathbf{v}_2 \mathbf{R}_2} \sum_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1} V \{ \mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1, \mathbf{v}_2 \mathbf{R}_2 | \mathbf{v}_3 \mathbf{R}_3, \mathbf{v}_4 \mathbf{R}_4 \} \hat{d}_{\mathbf{v}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_3 \mathbf{R}_3}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_2 \mathbf{R}_2} \hat{d}_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1} \quad (359)$$

$$\begin{aligned}- \sum_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4} \sum_{\mathbf{v}_3 \mathbf{R}_3} \sum_{\mathbf{v}_2 \mathbf{R}_2} \sum_{\mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1} \left[V \{ \mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4, \mathbf{v}_2 \mathbf{R}_2 | \mathbf{v}_3 \mathbf{R}_3, \mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1 \} \right. \\ \left. - V \{ \mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4, \mathbf{v}_2 \mathbf{R}_2 | \mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1, \mathbf{v}_3 \mathbf{R}_3 \} \right] \hat{c}_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_3 \mathbf{R}_3}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_2 \mathbf{R}_2} \hat{c}_{\mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1}\end{aligned}\quad (360)$$

と表される。ここで \hat{V} の大きさは

$$\frac{\hbar^2}{ma_{\mathbf{B}}^2} = \frac{\hbar^2}{ma^2} \left(\frac{a}{a_{\mathbf{B}}} \right)^2 \quad (361)$$

より、2次の摂動の大きさである。

また

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{1M-P} = & \sum_{\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \frac{\hbar^2 \mathbf{K}}{m_c} \cdot \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \right) \hat{c}_{\mathbf{c} \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c} \mathbf{R}_1} \\
& + \sum_{\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \frac{\hbar^2 \mathbf{K}}{m_h} \cdot \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \right) \hat{d}_{\mathbf{v} \mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v} \mathbf{R}_4} \\
& + \sum_{\mathbf{c}_4 \mathbf{v}_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle \mathbf{c}_4 | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{p}} | \mathbf{v}_1 \rangle \right) \hat{c}_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \\
& \quad + (\text{h.c.}) \\
& + \sum_{\mathbf{c}_4 \neq \mathbf{c}_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle \mathbf{c}_4 | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{p}} | \mathbf{c}_1 \rangle \right) \hat{c}_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1} \\
& - \sum_{\mathbf{v}_4 \neq \mathbf{v}_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle \mathbf{v}_4 | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{p}} | \mathbf{v}_1 \rangle \right) \hat{d}_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_4 \mathbf{R}_4} \\
& + \sum_{\mathbf{c}_4 \mathbf{v}_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} d^{(2)}(\mathbf{c}_4, \mathbf{v}_1, \mathbf{K}, \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1}) \right) \hat{c}_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \\
& \quad + (\text{h.c.}) \\
& + \sum_{\mathbf{c}_4 \neq \mathbf{c}_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} d^{(2)}(\mathbf{c}_4, \mathbf{c}_1, \mathbf{K}, \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1}) \right) \hat{c}_{\mathbf{c}_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}_1 \mathbf{R}_1} \\
& - \sum_{\mathbf{v}_4 \neq \mathbf{v}_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} d^{(2)}(\mathbf{v}_4, \mathbf{v}_1, \mathbf{K}, \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1}) \right) \hat{d}_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_4 \mathbf{R}_4}
\end{aligned} \tag{362}$$

ただし、上式の $\sum_{\mathbf{c}_4 \neq \mathbf{c}_1}$ と $\sum_{\mathbf{v}_4 \neq \mathbf{v}_1}$ は、エネルギーの縮退していない状態での和をとるものとする。また $d^{(2)}(\lambda_4, \lambda_1, \mathbf{K}, \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1})$ は摂動の2次の大きさをもつ項である。また上式の第1, 2項は2次の大きさ、第3項から第5項は1次の大きさをもつ項である。

次に

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{2M-P} = & \sum_{\mathbf{c} \mathbf{R}} \frac{\hbar^2}{2m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}, \mathbf{R}}^2 \hat{c}_{\mathbf{c} \mathbf{R}}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c} \mathbf{R}} \\
& - \sum_{\mathbf{v} \mathbf{R}} \frac{\hbar^2}{2m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}, \mathbf{R}}^2 \hat{d}_{\mathbf{v} \mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v} \mathbf{R}}
\end{aligned} \tag{363}$$

は2次の大きさをもつ。

波数を $\frac{1}{a_B}$ 程度であるとし、

$$\begin{aligned}
m_S^{\pm e} \{\lambda' \mathbf{R}' | \lambda \mathbf{R}\} \cdot \text{rot} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}' + \mathbf{R}}{2} \right) &\sim \frac{e\hbar}{2mc} \times qA \quad (q \text{ は電磁波の波数 } q \ll \frac{1}{a_B}) \\
&= \frac{e\hbar}{2mc} \times q \left(\frac{ea_B}{\hbar c} A \right) \frac{\hbar c}{ea_B} \\
&= \frac{\hbar^2}{2ma_B^2} (qa_B) \left(\frac{ea_B}{\hbar c} A \right) \\
&\sim (\mathbf{k} \cdot \mathbf{p} \text{ 摂動の 2 次エネルギー}) \times (qa_B) \left(\frac{ea_B}{\hbar c} A \right)
\end{aligned} \tag{364}$$

よって, $\langle \lambda' \mathbf{k} | \frac{(\pm e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \lambda \mathbf{k} \rangle$ は $\mathbf{k} \cdot \mathbf{p}$ 摂動において 0 次で十分である。よって

$$\begin{aligned}
\hat{Z}_{M-P} &= - \sum_{c_4 \mathbf{v}_1} \sum_{\mathbf{R}} \langle c_4 | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \mathbf{v}_1 \rangle \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}}^\dagger \\
&\quad + (\text{h.c.}) \\
&\quad - \frac{1}{c} \sum_{c_4 \mathbf{c}_1} \sum_{\mathbf{R}} \langle c_4 | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \mathbf{c}_1 \rangle \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}_1 \mathbf{R}} \\
&\quad - \frac{1}{c} \sum_{\mathbf{v}_4 \mathbf{v}_1} \sum_{\mathbf{R}} \langle \mathbf{v}_4 | \frac{(+e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \mathbf{v}_1 \rangle \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{d}_{\mathbf{v}_1 \mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}_4 \mathbf{R}}
\end{aligned} \tag{365}$$

電磁場のハミルトニアン \hat{H}_P は

$$\hat{H}_P + \int d\mathbf{x}^3 \frac{1}{8\pi} \left[(-4\pi c \boldsymbol{\Pi}^T) \cdot (-4\pi c \boldsymbol{\Pi}^T) + \text{rot} \mathbf{A} \cdot \text{rot} \mathbf{A} \right] \tag{366}$$

$$- \frac{1}{c} \sum_{\mathbf{v} \mathbf{R}} \int d^3 \mathbf{x} I^{-e} \{ \mathbf{v} \mathbf{R} | \mathbf{v} \mathbf{R} \}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \tag{367}$$

$$+ \sum_{\mathbf{v} \mathbf{R}} \int d^3 \mathbf{x} R \{ \mathbf{v} \mathbf{R} | \mathbf{v} \mathbf{R} \}(\mathbf{x}) \mathbf{A}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \tag{368}$$

$$- \sum_{\mathbf{v} \mathbf{R}} \int d^3 \mathbf{x} M_S^{-e} \{ \mathbf{v} \mathbf{R} | \mathbf{v} \mathbf{R} \}(\mathbf{x}) \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{x}) \tag{369}$$

となっている。

13 2 次の $\mathbf{k} \cdot \mathbf{p}$ 摂動による \hat{H} の全体像

以上において, \hat{H} の各項について摂動の大きさも含めて記述をした。ここでは各項をまとめ, 全体像を記述する。ただし, 電磁場による物質系の励起において, バンドギャップに比べ電磁場の振動数が十分小さいとすると, バンド間遷移をとまなう 2 次の摂動項は

無視して良い。これより \hat{H} を以下のように記述する。

$$\hat{H} = \sum_c \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \left(\frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \left(\epsilon_c + \frac{\hbar^2 \mathbf{K}^2}{2m_c} + \frac{\hbar^2 \mathbf{K}}{m_c} \cdot \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} + \frac{\hbar^2}{2m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1}^2 \right) \right) \hat{c}_{c\mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c\mathbf{R}_1} \quad (370)$$

$$+ \sum_v \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \left(\frac{1}{N} \sum_{\mathbf{K}} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \left(-\epsilon_v + \frac{\hbar^2 \mathbf{K}^2}{2m_h} - \frac{\hbar^2 \mathbf{K}}{m_h} \cdot \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} + \frac{\hbar^2}{2m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1}^2 \right) \right) \hat{d}_{v\mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v\mathbf{R}_1} \\ + \frac{1}{2} \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{c_3 \mathbf{R}_3} \sum_{c_2 \mathbf{R}_2} \sum_{c_1 \mathbf{R}_1} V \{c_4 \mathbf{R}_4, c_3 \mathbf{R}_3 | c_2 \mathbf{R}_2, c_1 \mathbf{R}_1\} \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_3 \mathbf{R}_3}^\dagger \hat{c}_{c_2 \mathbf{R}_2} \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \quad (371)$$

$$+ \frac{1}{2} \sum_{v_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_3 \mathbf{R}_3} \sum_{v_2 \mathbf{R}_2} \sum_{v_1 \mathbf{R}_1} V \{v_1 \mathbf{R}_1, v_2 \mathbf{R}_2 | v_3 \mathbf{R}_3, v_4 \mathbf{R}_4\} \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_3 \mathbf{R}_3}^\dagger \hat{d}_{v_2 \mathbf{R}_2} \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1} \quad (372)$$

$$- \sum_{c_4 \mathbf{R}_4} \sum_{v_3 \mathbf{R}_3} \sum_{v_2 \mathbf{R}_2} \sum_{c_1 \mathbf{R}_1} \left[V \{c_4 \mathbf{R}_4, v_2 \mathbf{R}_2 | v_3 \mathbf{R}_3, c_1 \mathbf{R}_1\} \right. \\ \left. - V \{c_4 \mathbf{R}_4, v_2 \mathbf{R}_2 | c_1 \mathbf{R}_1, v_3 \mathbf{R}_3\} \right] \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_3 \mathbf{R}_3}^\dagger \hat{d}_{v_2 \mathbf{R}_2} \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \\ + \sum_{c_4 v_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle c_4 | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{p}} | v_1 \rangle \right) \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1}^\dagger \\ + (\text{h.c.}) \\ + \sum_{c_4 \neq c_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle c_4 | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{p}} | c_1 \rangle \right) \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}_1} \\ - \sum_{v_4 \neq v_1} \sum_{\mathbf{R}_4 \mathbf{R}_1} \sum_{\mathbf{K}} \left(\frac{1}{N} e^{i\mathbf{K}(\mathbf{R}_4 - \mathbf{R}_1)} \langle v_1 | \frac{\hbar}{m} \mathbf{a}_{\mathbf{R}_4, \mathbf{R}_1} \cdot \hat{\mathbf{p}} | v_4 \rangle \right) \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}_4}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}_1} \\ - \sum_{c_4 v_1} \sum_{\mathbf{R}} \langle c_4 | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | v_1 \rangle \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}}^\dagger \\ + (\text{h.c.})$$

$$- \frac{1}{c} \sum_{c_4 c_1} \sum_{\mathbf{R}} \langle c_4 | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | c_1 \rangle \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{c}_{c_4 \mathbf{R}}^\dagger \hat{c}_{c_1 \mathbf{R}} \\ - \frac{1}{c} \sum_{v_4 v_1} \sum_{\mathbf{R}} \langle v_1 | \frac{(+e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | v_4 \rangle \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{d}_{v_4 \mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{v_1 \mathbf{R}} \\ + \int d\mathbf{x}^3 \frac{1}{8\pi} \left[(-4\pi c \boldsymbol{\Pi}^T) \cdot (-4\pi c \boldsymbol{\Pi}^T) + \text{rot} \mathbf{A} \cdot \text{rot} \mathbf{A} \right] \quad (373)$$

$$- \frac{1}{c} \sum_{v\mathbf{R}} \int d^3 \mathbf{x} \mathbf{I}^{-e} \{v\mathbf{R} | v\mathbf{R}\}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \quad (374)$$

$$+ \sum_{v\mathbf{R}} \int d^3 \mathbf{x} \mathbf{R} \{v\mathbf{R} | v\mathbf{R}\}(\mathbf{x}) \mathbf{A}(\mathbf{x}) \cdot \mathbf{A}(\mathbf{x}) \quad (375)$$

$$- \sum_{v\mathbf{R}} \int d^3 \mathbf{x} \mathbf{M}_S^{-e} \{v\mathbf{R} | v\mathbf{R}\}(\mathbf{x}) \cdot \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{x}) \quad (376)$$

14 2次の $\mathbf{k} \cdot \mathbf{p}$ 摂動における電磁場の振動数が物質系のエネルギーギャップより十分小さい場合にたいする有効ハミルトニアン

前章で述べたハミルトニアンはベクトルポテンシャルの2乗の項に現れる質量が電子の裸の質量になっていた。これは Kira らが指摘している通りであるが、一方で Luttinger らはこの質量が有効質量となるハミルトニアンを用いている。本章では、前章までに導かれた Kira 型のハミルトニアンが電磁場の振動数が物質系のエネルギーギャップより十分小さい場合にたいする有効ハミルトニアンを考えることにより、Luttinger 型のハミルトニアンに一致することを示す。

14.1 $\mathbf{k} \cdot \mathbf{p}$ 摂動における2次までの Kira 型のハミルトニアン \hat{H}

$$\begin{aligned}
\hat{H} = & \sum_{\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left(\epsilon_{\mathbf{c}} + \frac{\hbar^2}{2m_{\mathbf{c}}} (\mathbf{k} - \mathbf{a})^2 + \frac{\hbar^2}{2} \left(\frac{1}{m} - \frac{1}{m_{\mathbf{c}}} \right) (-\mathbf{a})^2 \right) \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}'}^{\dagger} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\
& - \sum_{\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left(\epsilon_{\mathbf{v}} + \frac{\hbar^2}{2m_{\mathbf{v}}} (\mathbf{k} - \mathbf{a})^2 + \frac{\hbar^2}{2} \left(\frac{1}{m} - \frac{1}{m_{\mathbf{v}}} \right) (-\mathbf{a})^2 \right) \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}^{\dagger} \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}'} \\
& + \sum_{\mathbf{c}'\mathbf{c}(\epsilon_{\mathbf{c}'} \neq \epsilon_{\mathbf{c}})} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left(\frac{\hbar}{m} (-\mathbf{a}) \cdot \mathbf{p}_{\mathbf{c}'\mathbf{c}} + h^{(2)}(\mathbf{c}', \mathbf{c}, \mathbf{k}, \mathbf{a}) \right) \hat{c}_{\mathbf{c}'\mathbf{R}'}^{\dagger} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\
& - \sum_{\mathbf{v}'\mathbf{v}(\epsilon_{\mathbf{v}'} \neq \epsilon_{\mathbf{v}})} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left(\frac{\hbar}{m} (-\mathbf{a}) \cdot \mathbf{p}_{\mathbf{v}'\mathbf{v}} + h^{(2)}(\mathbf{v}', \mathbf{v}, \mathbf{k}, \mathbf{a}) \right) \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}^{\dagger} \hat{d}_{\mathbf{v}'\mathbf{R}'} \\
& + \sum_{\mathbf{c}'\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left(\frac{\hbar}{m} (-\mathbf{a}) \cdot \mathbf{p}_{\mathbf{c}'\mathbf{v}} + h^{(2)}(\mathbf{c}', \mathbf{v}, \mathbf{k}, \mathbf{a}) \right) \hat{c}_{\mathbf{c}'\mathbf{R}'}^{\dagger} \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}^{\dagger} \\
& + \sum_{\mathbf{v}'\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left(\frac{\hbar}{m} (-\mathbf{a}) \cdot \mathbf{p}_{\mathbf{v}'\mathbf{c}} + h^{(2)}(\mathbf{v}', \mathbf{c}, \mathbf{k}, \mathbf{a}) \right) \hat{d}_{\mathbf{v}'\mathbf{R}'}^{\dagger} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\
& + \frac{1}{2} \sum_{\mathbf{c}'\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} V \{ \mathbf{c}\mathbf{R}, \mathbf{c}'\mathbf{R}' | \mathbf{c}'\mathbf{R}', \mathbf{c}\mathbf{R} \} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}}^{\dagger} \hat{c}_{\mathbf{c}'\mathbf{R}'}^{\dagger} \hat{c}_{\mathbf{c}'\mathbf{R}'} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\
& + \frac{1}{2} \sum_{\mathbf{v}'\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} V \{ \mathbf{v}\mathbf{R}, \mathbf{v}'\mathbf{R}' | \mathbf{v}'\mathbf{R}', \mathbf{v}\mathbf{R} \} \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}^{\dagger} \hat{d}_{\mathbf{v}'\mathbf{R}'}^{\dagger} \hat{d}_{\mathbf{v}'\mathbf{R}'} \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}} \\
& - \sum_{\mathbf{c}\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} V \{ \mathbf{c}\mathbf{R}, \mathbf{v}\mathbf{R}' | \mathbf{v}\mathbf{R}', \mathbf{c}\mathbf{R} \} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}}^{\dagger} \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}'}^{\dagger} \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}'} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\
& - \sum_{\mathbf{c}'\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}} \langle \mathbf{c}' | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \mathbf{c} \rangle \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{c}_{\mathbf{c}'\mathbf{R}}^{\dagger} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\
& - \sum_{\mathbf{v}'\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}} \langle \mathbf{v}' | \frac{(+e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \mathbf{v} \rangle \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}^{\dagger} \hat{d}_{\mathbf{v}'\mathbf{R}} \\
& - \sum_{\mathbf{c}'\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}} \langle \mathbf{c}' | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \mathbf{v} \rangle \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{c}_{\mathbf{c}'\mathbf{R}}^{\dagger} \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}^{\dagger} \\
& - \sum_{\mathbf{v}'\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}} \langle \mathbf{v}' | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \mathbf{c} \rangle \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{d}_{\mathbf{v}'\mathbf{R}}^{\dagger} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\
\equiv & \hat{H}^{(0)} + \hat{H}^{(1)} + \hat{V} + \hat{M}
\end{aligned} \tag{377}$$

ここで,

$$\begin{aligned}\hat{H}^{(0)} &= \sum_{\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left(\epsilon_{\mathbf{c}} + \frac{\hbar^2}{2m_{\mathbf{c}}} (\mathbf{k} - \mathbf{a})^2 + \frac{\hbar^2}{2} \left(\frac{1}{m} - \frac{1}{m_{\mathbf{c}}} \right) (-\mathbf{a})^2 \right) \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}'}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\ &\quad - \sum_{\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left(\epsilon_{\mathbf{v}} + \frac{\hbar^2}{2m_{\mathbf{v}}} (\mathbf{k} - \mathbf{a})^2 + \frac{\hbar^2}{2} \left(\frac{1}{m} - \frac{1}{m_{\mathbf{v}}} \right) (-\mathbf{a})^2 \right) \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}'}\end{aligned}\quad (378)$$

$$\begin{aligned}\hat{H}^{(1)} &= + \sum_{\mathbf{c}'\mathbf{c}(\epsilon_{\mathbf{c}'} \neq \epsilon_{\mathbf{c}})} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left(\frac{\hbar}{m} (-\mathbf{a}) \cdot \mathbf{p}_{\mathbf{c}'\mathbf{c}} + h^{(2)}(\mathbf{c}', \mathbf{c}, \mathbf{k}, \mathbf{a}) \right) \hat{c}_{\mathbf{c}'\mathbf{R}'}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\ &\quad - \sum_{\mathbf{v}'\mathbf{v}(\epsilon_{\mathbf{v}'} \neq \epsilon_{\mathbf{v}})} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left(\frac{\hbar}{m} (-\mathbf{a}) \cdot \mathbf{p}_{\mathbf{v}'\mathbf{v}} + h^{(2)}(\mathbf{v}', \mathbf{v}, \mathbf{k}, \mathbf{a}) \right) \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}'\mathbf{R}'} \\ &\quad + \sum_{\mathbf{c}'\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left(\frac{\hbar}{m} (-\mathbf{a}) \cdot \mathbf{p}_{\mathbf{c}'\mathbf{v}} + h^{(2)}(\mathbf{c}', \mathbf{v}, \mathbf{k}, \mathbf{a}) \right) \hat{c}_{\mathbf{c}'\mathbf{R}'}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}^\dagger \\ &\quad + \sum_{\mathbf{v}'\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left(\frac{\hbar}{m} (-\mathbf{a}) \cdot \mathbf{p}_{\mathbf{v}'\mathbf{c}} + h^{(2)}(\mathbf{v}', \mathbf{c}, \mathbf{k}, \mathbf{a}) \right) \hat{d}_{\mathbf{v}'\mathbf{R}'}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}}\end{aligned}\quad (379)$$

$$\begin{aligned}\hat{V} &+ \frac{1}{2} \sum_{\mathbf{c}'\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} V \{ \mathbf{c}\mathbf{R}, \mathbf{c}'\mathbf{R}' | \mathbf{c}'\mathbf{R}', \mathbf{c}\mathbf{R} \} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}'\mathbf{R}'}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}'\mathbf{R}'} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\ &\quad + \frac{1}{2} \sum_{\mathbf{v}'\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} V \{ \mathbf{v}\mathbf{R}, \mathbf{v}'\mathbf{R}' | \mathbf{v}'\mathbf{R}', \mathbf{v}\mathbf{R} \} \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}'\mathbf{R}'}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}'\mathbf{R}'} \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}} \\ &\quad - \sum_{\mathbf{c}\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} V \{ \mathbf{c}\mathbf{R}, \mathbf{v}\mathbf{R}' | \mathbf{v}\mathbf{R}', \mathbf{c}\mathbf{R} \} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}'}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}'} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}}\end{aligned}\quad (380)$$

$$\begin{aligned}\hat{M} &= - \sum_{\mathbf{c}'\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}} \langle \mathbf{c}' | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \mathbf{c} \rangle \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{c}_{\mathbf{c}'\mathbf{R}}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\ &\quad - \sum_{\mathbf{v}'\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}} \langle \mathbf{v}' | \frac{(+e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \mathbf{v} \rangle \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}'\mathbf{R}} \\ &\quad - \sum_{\mathbf{c}'\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}} \langle \mathbf{c}' | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \mathbf{v} \rangle \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{c}_{\mathbf{c}'\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}^\dagger \\ &\quad - \sum_{\mathbf{v}'\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}} \langle \mathbf{v}' | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \mathbf{c} \rangle \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{d}_{\mathbf{v}'\mathbf{R}}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}}\end{aligned}\quad (381)$$

14.2 各 valence band と conduction band におけるホールと電子の数が常に保存する部分空間における $\mathbf{k} \cdot \mathbf{p}$ 摂動 2 次の有効ハミルトニアン \hat{H}

考慮する部分空間として、各 valence band と conduction band 内にあるホールと電子において、縮退したバンド内のホールもしくは電子の合計数が一定である状態の空間をとる。このとき $\hat{H}^{(1)}$ はエネルギーの違うバンド間遷移、またはホールと電子の対生成、対消滅を表すが、大きさが $\frac{\hbar^2}{ma^2} \left(\frac{a}{a_B} \right) = (1 \text{ 次のエネルギーの大きさ})$ であるので、これを 2 次摂動の形で $\hat{H}^{(0)}$ に繰り込む。これを $\hat{H}_{\text{eff}}^{(0)}$ とする。このとき $h^{(2)}(\lambda', \lambda, \mathbf{k}, \mathbf{a})$ は 3 次の効果になるので無視することができる。これより $\hat{H}_{\text{eff}}^{(0)}$ は

$$\begin{aligned}
 \hat{H}_{\text{eff}}^{(0)} &= \sum_{\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left[\epsilon_{\mathbf{c}} + \frac{\hbar^2}{2m_{\mathbf{c}}} (\mathbf{k} - \mathbf{a})^2 + \frac{\hbar^2}{2} \left(\frac{1}{m} - \frac{1}{m_{\mathbf{c}}} \right) (-\mathbf{a})^2 \right. \\
 &\quad \left. + \langle \mathbf{c} | \frac{\hbar}{m} (-\mathbf{a}) \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\mathbf{c})}}{\epsilon_{\mathbf{c}} - \hbar} \frac{\hbar}{m} (-\mathbf{a}) \cdot \mathbf{p} | \mathbf{c} \rangle \right] \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}'}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\
 &\quad - \sum_{\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left[\epsilon_{\mathbf{v}} + \frac{\hbar^2}{2m_{\mathbf{v}}} (\mathbf{k} - \mathbf{a})^2 + \frac{\hbar^2}{2} \left(\frac{1}{m} - \frac{1}{m_{\mathbf{v}}} \right) (-\mathbf{a})^2 \right. \\
 &\quad \left. + \langle \mathbf{v} | \frac{\hbar}{m} (-\mathbf{a}) \cdot \mathbf{p} \frac{\bar{\phi}_{D(\mathbf{v})}}{\epsilon_{\mathbf{v}} - \hbar} \frac{\hbar}{m} (-\mathbf{a}) \cdot \mathbf{p} | \mathbf{v} \rangle \right] \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}'}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}} \\
 &= \sum_{\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left[\epsilon_{\mathbf{c}} + \frac{\hbar^2}{2m_{\mathbf{c}}} (\mathbf{k} - \mathbf{a})^2 + \frac{\hbar^2}{2} \left(\frac{1}{m} - \frac{1}{m_{\mathbf{c}}} \right) (-\mathbf{a})^2 \right. \\
 &\quad \left. + \frac{\hbar^2}{2} \left(\frac{1}{m_{\mathbf{c}}} - \frac{1}{m} \right) (-\mathbf{a})^2 \right] \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}'}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\
 &\quad - \sum_{\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left[\epsilon_{\mathbf{v}} + \frac{\hbar^2}{2m_{\mathbf{v}}} (\mathbf{k} - \mathbf{a})^2 + \frac{\hbar^2}{2} \left(\frac{1}{m} - \frac{1}{m_{\mathbf{v}}} \right) (-\mathbf{a})^2 \right. \\
 &\quad \left. + \frac{\hbar^2}{2} \left(\frac{1}{m_{\mathbf{v}}} - \frac{1}{m} \right) (-\mathbf{a})^2 \right] \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}'}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}} \\
 &= \sum_{\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left[\epsilon_{\mathbf{c}} + \frac{\hbar^2}{2m_{\mathbf{c}}} (\mathbf{k} - \mathbf{a})^2 \right] \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}'}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\
 &\quad - \sum_{\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left[\epsilon_{\mathbf{v}} + \frac{\hbar^2}{2m_{\mathbf{v}}} (\mathbf{k} - \mathbf{a})^2 \right] \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}'}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}
 \end{aligned}$$

よって、このときハミルトニアン \hat{H} は

$$\begin{aligned}
\hat{H} = & \sum_{\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left(\epsilon_{\mathbf{c}} + \frac{\hbar^2}{2m_{\mathbf{c}}} (\mathbf{k} - \mathbf{a})^2 \right) \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}'}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\
& - \sum_{\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left(\epsilon_{\mathbf{v}} + \frac{\hbar^2}{2m_{\mathbf{v}}} (\mathbf{k} - \mathbf{a})^2 \right) \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}'} \\
& + \frac{1}{2} \sum_{\mathbf{c}'\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} V \{ \mathbf{c}\mathbf{R}, \mathbf{c}'\mathbf{R}' | \mathbf{c}'\mathbf{R}', \mathbf{c}\mathbf{R} \} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}'\mathbf{R}'}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}'\mathbf{R}'} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\
& + \frac{1}{2} \sum_{\mathbf{v}'\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} V \{ \mathbf{v}\mathbf{R}, \mathbf{v}'\mathbf{R}' | \mathbf{v}'\mathbf{R}', \mathbf{v}\mathbf{R} \} \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}'\mathbf{R}'}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}'\mathbf{R}'} \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}} \\
& - \sum_{\mathbf{c}\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} V \{ \mathbf{c}\mathbf{R}, \mathbf{v}\mathbf{R}' | \mathbf{v}\mathbf{R}', \mathbf{c}\mathbf{R} \} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}'}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}'} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\
& - \sum_{\mathbf{c}'\mathbf{c}(\epsilon_{\mathbf{c}'}=\epsilon_{\mathbf{c}})} \sum_{\mathbf{R}} \langle \mathbf{c}' | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \mathbf{c} \rangle \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{c}_{\mathbf{c}'\mathbf{R}}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\
& - \sum_{\mathbf{v}'\mathbf{v}(\epsilon_{\mathbf{v}'}=\epsilon_{\mathbf{v}})} \sum_{\mathbf{R}} \langle \mathbf{v}' | \frac{(+e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \mathbf{v} \rangle \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}'\mathbf{R}}
\end{aligned} \tag{382}$$

$$\begin{aligned}
\hat{H} = & \sum_{\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left(\epsilon_{\mathbf{c}} + \frac{\hbar^2}{2m_{\mathbf{c}}} (\mathbf{k} - \mathbf{a})^2 \right) \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}'}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\
& + \sum_{\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}-\mathbf{R}')} \left(-\epsilon_{\mathbf{v}} - \frac{\hbar^2}{2m_{\mathbf{v}}} (-\mathbf{k} - \mathbf{a})^2 \right) \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}'} \\
& + \frac{1}{2} \sum_{\mathbf{c}'\mathbf{c}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} V \{ \mathbf{c}\mathbf{R}, \mathbf{c}'\mathbf{R}' | \mathbf{c}'\mathbf{R}', \mathbf{c}\mathbf{R} \} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}'\mathbf{R}'}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}'\mathbf{R}'} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\
& + \frac{1}{2} \sum_{\mathbf{v}'\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} V \{ \mathbf{v}\mathbf{R}, \mathbf{v}'\mathbf{R}' | \mathbf{v}'\mathbf{R}', \mathbf{v}\mathbf{R} \} \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}'\mathbf{R}'}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}'\mathbf{R}'} \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}} \\
& - \sum_{\mathbf{c}\mathbf{v}} \sum_{\mathbf{R}'\mathbf{R}} V \{ \mathbf{c}\mathbf{R}, \mathbf{v}\mathbf{R}' | \mathbf{v}\mathbf{R}', \mathbf{c}\mathbf{R} \} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}'}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}'} \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\
& - \sum_{\mathbf{c}'\mathbf{c}(\epsilon_{\mathbf{c}'}=\epsilon_{\mathbf{c}})} \sum_{\mathbf{R}} \langle \mathbf{c}' | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \mathbf{c} \rangle \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{c}_{\mathbf{c}'\mathbf{R}}^\dagger \hat{c}_{\mathbf{c}\mathbf{R}} \\
& - \sum_{\mathbf{v}'\mathbf{v}(\epsilon_{\mathbf{v}'}=\epsilon_{\mathbf{v}})} \sum_{\mathbf{R}} \langle \mathbf{v}' | \frac{(+e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | \mathbf{v} \rangle \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{d}_{\mathbf{v}\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{\mathbf{v}'\mathbf{R}}
\end{aligned} \tag{383}$$

$$\begin{aligned}
\hat{H} = & \sum_c \sum_{\mathbf{R}'/\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}'-\mathbf{R})} \left[\epsilon_c + \frac{\hbar^2}{2m_c} \left(\mathbf{k} - \frac{(-e)}{\hbar c} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}' + \mathbf{R}}{2} \right) \right)^2 \right] \hat{c}_{c\mathbf{R}'}^\dagger \hat{c}_{c\mathbf{R}} \\
& + \sum_v \sum_{\mathbf{R}'/\mathbf{R}} \frac{1}{N} e^{i\mathbf{k}(\mathbf{R}-\mathbf{R}')} \left[-\epsilon_v + \frac{\hbar^2}{2(-m_v)} \left(\mathbf{k} - \frac{(+e)}{\hbar c} \mathbf{A} \left(\frac{\mathbf{R}' + \mathbf{R}}{2} \right) \right)^2 \right] \hat{d}_{v\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{v\mathbf{R}'} \\
& + \frac{1}{2} \sum_{c'/c} \sum_{\mathbf{R}'/\mathbf{R}} V \{c\mathbf{R}, c'\mathbf{R}' | c'\mathbf{R}', c\mathbf{R}\} \hat{c}_{c\mathbf{R}}^\dagger \hat{c}_{c'\mathbf{R}'}^\dagger \hat{c}_{c'\mathbf{R}'} \hat{c}_{c\mathbf{R}} \\
& + \frac{1}{2} \sum_{v'/v} \sum_{\mathbf{R}'/\mathbf{R}} V \{v\mathbf{R}, v'\mathbf{R}' | v'\mathbf{R}', v\mathbf{R}\} \hat{d}_{v\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{v'\mathbf{R}'}^\dagger \hat{d}_{v'\mathbf{R}'} \hat{d}_{v\mathbf{R}} \\
& - \sum_{cv} \sum_{\mathbf{R}'/\mathbf{R}} V \{c\mathbf{R}, v\mathbf{R}' | v\mathbf{R}', c\mathbf{R}\} \hat{c}_{c\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{v\mathbf{R}'}^\dagger \hat{d}_{v\mathbf{R}'} \hat{c}_{c\mathbf{R}} \\
& - \sum_{c'c(\epsilon_{c'}=\epsilon_c)} \sum_{\mathbf{R}} \langle c' | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | c \rangle \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{c}_{c'\mathbf{R}}^\dagger \hat{c}_{c\mathbf{R}} \\
& - \sum_{v'v(\epsilon_{v'}=\epsilon_v)} \sum_{\mathbf{R}} \langle v' | \frac{(+e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | v \rangle \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{d}_{v\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{v'\mathbf{R}}
\end{aligned} \tag{384}$$

以上のように、電磁場の振動数がバンドギャップに比べて十分小さく、キャリアのバンド間遷移を考えない部分空間を考えると、そのとき現れる有効ハミルトニアンが Luttinger 型になることが示された。

また上記ハミルトニアンは格子を連続体に近似したとき、以下のようにも書かれることを指摘しておく。

$$\begin{aligned}
\hat{H} = & \sum_c \int d\mathbf{R}^3 \hat{c}_{c\mathbf{R}}^\dagger \left[\epsilon_c - \frac{\hbar^2}{2m_c} \left(\nabla - i \frac{(-e)}{\hbar c} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \right)^2 \right] \hat{c}_{c\mathbf{R}} \\
& + \sum_v \int d\mathbf{R}^3 \hat{d}_{v\mathbf{R}}^\dagger \left[-\epsilon_v - \frac{\hbar^2}{2(-m_v)} \left(\nabla - i \frac{(+e)}{\hbar c} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \right)^2 \right] \hat{d}_{v\mathbf{R}} \\
& + \frac{1}{2} \sum_{c'/c} \int d\mathbf{R}^3 \int d\mathbf{R}'^3 V \{c\mathbf{R}, c'\mathbf{R}' | c'\mathbf{R}', c\mathbf{R}\} \hat{c}_{c\mathbf{R}}^\dagger \hat{c}_{c'\mathbf{R}'}^\dagger \hat{c}_{c'\mathbf{R}'} \hat{c}_{c\mathbf{R}} \\
& + \frac{1}{2} \sum_{v'/v} \int d\mathbf{R}^3 \int d\mathbf{R}'^3 V \{v\mathbf{R}, v'\mathbf{R}' | v'\mathbf{R}', v\mathbf{R}\} \hat{d}_{v\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{v'\mathbf{R}'}^\dagger \hat{d}_{v'\mathbf{R}'} \hat{d}_{v\mathbf{R}} \\
& - \sum_{cv} \int d\mathbf{R}^3 \int d\mathbf{R}'^3 V \{c\mathbf{R}, v\mathbf{R}' | v\mathbf{R}', c\mathbf{R}\} \hat{c}_{c\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{v\mathbf{R}'}^\dagger \hat{d}_{v\mathbf{R}'} \hat{c}_{c\mathbf{R}} \\
& - \sum_{c'c(\epsilon_{c'}=\epsilon_c)} \int d\mathbf{R}^3 \langle c' | \frac{(-e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | c \rangle \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{c}_{c'\mathbf{R}}^\dagger \hat{c}_{c\mathbf{R}} \\
& - \sum_{v'v(\epsilon_{v'}=\epsilon_v)} \int d\mathbf{R}^3 \langle v' | \frac{(+e)\hbar}{2mc} \boldsymbol{\sigma} | v \rangle \text{rot} \mathbf{A}(\mathbf{R}) \hat{d}_{v\mathbf{R}}^\dagger \hat{d}_{v'\mathbf{R}}
\end{aligned} \tag{385}$$

15 研修の報告と謝辞

本研修は2015年4月から2016年3月まで、大阪大学大学院理学研究科物理学専攻小川研究室, 東洋大学理工学部柴田研究室にて行いました。大阪大学には2週間に一度、大阪に2泊しながら大学に通って研究を行いました。大阪大学では主に教授の小川先生, 准教授の浅野先生, ポスドクの山田さん, 馬場さん, ドクターコース学生の比嘉さん, マスターコース学生の八木さんと議論をさせていただきました。そこでの議論や物理学会での話から, 現在 THz 光の発展がめざましいことを教えていただいたことは, 本研修の中心的な役割を果たしました。本研修では私が学生時代に勉強していた半導体中の励起子についてさらに勉強をすることにしましたが, そこに THz 光の光がどのように関わるかについて調べることにしました。大阪大学のコンピュータを使わせていただき, 励起子が THz のエバネッセント光によって重心運動が生じるかについて計算をおこないましたが, まだ結論が出ていないので, 紀要にはそのベースとなる理論的基礎付けを書くことにしたのみにとどめました。THz のエバネッセント光による励起子重心運動についての計算は今後も続けていく予定です。大阪大学の皆様には, 部屋やコンピュータの提供から議論にいたるまで大変お世話になりました。東洋大学には2週間に1度通い, 柴田先生と多くの議論をしていただき, 光と物質についての関係について様々なこと教えていただきました。ありがとうございます。また研修中に2回山梨大学の准教授である石川先生, 埼玉医科大学の鈴木先生にも議論をしていただき, 大変感謝をしています。石川先生には半導体と光の理論についての様々な先端の情報を教えていただき, また論文等も紹介していただきました。また鈴木先生には様々な視点から本研究のコメントをいただきました。このように研修中には多くの方にお世話になり, 多くの勉強をすることができました。感謝申し上げます。また本校の教職員の皆さまには, このような大変貴重な勉強の機会を与えていただきましたこと大変感謝しております。ありがとうございました。

関連図書

- [1] H.Haug and S.W.Koch,QUANTUM THEORY OF THE OPTICAL AND ELECTRONIC PROPERTIES OF SEMICONDUCTORS,World Scientific (1990).
- [2] Schmitt-Rink,Chemla,Miller,Adv.Phys. **38**, 89 (1989).
- [3] Chemla and Shah, Nature(London) **411**, 549 (2001).
- [4] Koch,Kira,Khitrova,Gibbs,Nat.Mater **5**, 523 (2006)
- [5] Kira,Jahnke,Koch,Phys.Rev.Lett. **81**, 3263 (1998)
- [6] Kaindl,Carnahan,Hagele,Lovenich,Chemla,Nature (London) **423**, 734 (2003)
- [7] Galbraith,Chari,Pellegrini,Phillips,Dent,van der Meer,Clarke,Kar,Buller,Pidgeon,Murdin,Allam,Strasser, Phys.Rev.B **71**, 073302 (2005)
- [8] Huber,Schmid,Shen,Chemla,Kaindl,Phys.Rev.Lett. **96**, 017402 (2006)
- [9] Kira,Hoyer,Stroucken,Koch, Phys. Rev. Lett. **87**, 176401 (2001)
- [10] Kira, Koch, Phys. Rev. Lett. **93**, 076402 (2004)
- [11] Kira,Koch, Phys. Rev. A **73**, 013813 (2006)
- [12] Kira, Koch, Phys. Rev. Lett. **93**, 076402 (2004)
- [13] Kira,Koyer,Koch,Solid State Commun. **129**, 733 (2004)
- [14] Kuhler,Huber,Leitenstorfer,Semicond.Sci.Technol. **20**,S128 (2005)
- [15] Kobler,Tredicucci,Beltram,Beere,Linfield,Davies,Ritchie,Iotti,Rossi,Nature(London) **417**, 156 (2002)
- [16] J.M.Luttinger and M.Kohn,Phys.Rev. **97**, 869 (1955).
- [17] M.Kira and Koch,Phys.Stat.Sol, 238 (2003).